

発刊のご挨拶



JR 長野駅善光寺口に近接して当商店街はあります。町の名前「石堂町」の由来は石堂丸（石童丸）からきています。石堂丸と言ってすぐに、その物語のわかる人は、年配の方と思われるのですが、近くに刈萱上人と石堂丸由来の西光寺（別名かるかや山）があり歴史のある町です。

遠く平安時代にまでさかのぼる刈萱上人と石堂丸の話はいつの世も親を思う子の気持ち、子を思う親の気持ちの普遍さを伝えるものです。その名前に由来のある「南石堂町商店街振興組合」の組合員には若手の経営者が多く大変活気のある商店街です。

当商店街の中心には組合の管理する駐車場があり、24 時間利用可能で組合員店舗への来客の利便性を支援しています。毎年 8 月初旬に行う「蟻の市」には近隣からの来場者も含め大変な賑わいをみせます。

しかし、この 40 年ほどを振り返ると長野駅前も大きく変化し、当商店街も少子高齢化、郊外への大型物販店の出現、購買行動の変化など、時代とともにその影響を多く受けてきました。平成 27 年 3 月には新幹線が金沢まで延伸し、長野駅ビルには多くの店舗が入居し人の流れにも大きな変化が生まれました。

こういった状況下でも私たちはただ何もせず時代の流れに翻弄され、対応できずに縮小していくことを良しとはしていません。当商店街組合員一同は人と人との接点を大切に「親切」、「丁寧」、「おもてなしの心」を大切にできていますが、こうした歴史と伝統を受け継いでもらいながらも、時代の潮流に機敏に反応し、新しいことにチャレンジし、生まれ変わっていかなければ商業活動に先はないと思っています。

こうした思いから当商店街では、長野駅前の商業振興及び活性化を目的にこれまでもさまざまな取り組みを行ってきました。そうした中で、地域でご活躍されている方々の熱い思いや考えに触れ、大きなイメージーションを受けてきました。皆さまは「地域のために」「次世代のために」との自他共存の精神で地道に活動されており、こうした思いを広く共有できれば地域を育む一つの動きが生まれてくるのではないかと日頃より思っていました。

そこで、市井の皆さまから地域課題及び解決策(考え)をレポートで集め、地域の生の声を

当商店街で編纂し公開することで、皆に広く共有できれば、活動のヒントに繋がるのではないかと、昨年より本事業を開始し、「地域の論点 2020」として発刊しました。有難いことに発刊後は、お読みいただいた方々から感想やお問い合わせをいただき、反響の多さに驚いています。そして、今年も多くの皆さまのご協力に支えられ、無事発刊にこぎつけることができました。

商店街という地域団体が編纂していますが、商店街というテーマだけではなく、教育、福祉、まちづくり、ボランティア、地域スポーツ、地域経済、地域社会、コミュニティ、文化、観光など、テーマや執筆者を限定することなく、広く募集をさせていただきました。有難いことに 12 の個人や団体の皆さまから執筆のご協力をいただきました。どのレポートも執筆者の熱い想いや問題意識、方策が多く詰まっており、私たちが目指した「在野の知的財産の集積」と言える読み応えのある論集に仕上がっています。

遠い場所でも同じような課題や悩みを抱えており、思いもよらなかったことが解決の糸口になることは、私たちが生活している社会の中でもよくあることです。そんな見つけにくい「よくあること」のヒントをこの論集で得ていただけることがあれば、これほど嬉しいことはありません。執筆者並びに編纂にご協力いただいた多くの皆さまには感謝をしてもしきれません。本当にありがとうございました。

さて、2019 年は台風 19 号災害があり、復旧もままならないうちに新型コロナウイルス感染症による混乱が起き、今年に入っても一向に先行きが見通せていません。不安な毎日ではありますが生き抜くヒントは必ずどこかにあるはずです。心だけは腐ることなくひたむきに生きたいものです。

最後に、私たちと執筆者、執筆者と読み手であるあなた、あなたと論集を介して出会うまだ知らないあの人や一つひとつの地域活動。「地域の論点 2021」を通じて生まれる多くの出会いに幸あることを願ひまして、発刊の挨拶とさせていただきます。

令和 3 年 3 月 吉日
南石堂町商店街振興組合
理事長 早川 房義

発行のご挨拶 南石堂町商店街振興組合 理事長 早川 房義	1
目次	3
論点1 「私たちがデザインでできること～可能性×つなぐ×よろこび～」	
岡 正子、窪田 皓優	4
論点2 「長野市松代地区の地域活性化～学生ボランティア活動から見えるもの～」	
ボランティア団体 Matsushiro JBT	9
論点3 「商店街の復興による長野市の地域活性」 伊藤 結	18
コラム 道端に咲く独り言 「地域プロジェクトマネージャー制度」 編纂事務局	24
論点4 「『湯の丸、から金メダリストを生み出したい』 小山 和晃	25
論点5 「新時代を活性化するために」 小島 實	29
論点6 「時代に合った必要とされる街へ」 渡辺 真澄	33
コラム 道端に咲く独り言 「南石『誰でも、ミーティング』 編纂事務局	38
論点7 「100年先も暮らしたい長野県にしよう ～長野県NPOセンターの紹介～」	
小林 達矢	39
論点8 「高校生のやりたい想いを実現する ～『放課後の居場所、というコミュニティの可能性～』	
中澤 貫太	43
論点9 「長野をクイズの街へ ～私たち高校生の挑戦～」 宮坂 玲志、丸山 蒼	49
コラム 道端に咲く独り言 「地域活動の実験フィールドとして」 編纂事務局	53
論点10 「商店街を取り巻く環境 ～市場と構想～」 川村 和廣	55
論点11 「善光寺口商店会『パルセイロ活性化委員会』の活動について」	
北村 泰邦	57
論点12 「コロナ禍でも出来ること ～2020年の経験を活かして～」 深澤 隆之	62
あとがき 南石堂町商店街振興組合 活性化委員長 滝口 誠	69

※本文中の脚注番号は通し番号としております

「地域の論点」 論点1 巻頭特別インタビュー

私たちがデザインでできること ～可能性×つなぐ×よろこび～

岡学園トータルデザインアカデミー

校長 岡 正子

長野プロデュース科1年 窪田 皓優

はじめに ～ 地域の論点編集事務局より ～

『地域の論点』は今年で2年目を迎えました。この事業は、「在野の知的財産を集積し、実践知の可視化を図る」ことを目的として、昨年度からスタートしたものです。地域団体がこうした取り組みを行った例は珍しく、『地域の論点2020』を冊子やホームページ、SNSで発表したところ多くの方々からお問い合わせや激励のお言葉を戴きました。『地域の論点』という1つの対象物があるだけで、自身の意見を言いやすくなったり、関心を寄せることが出来るなど、私たちが想像していた以上の反応に驚きました。

そして今年度の『地域の論点2021』は、「若い世代の想いや取り組み」を取り上げることを1つのテーマとして掲げています。ここ最近の世相と言うと、災害やコロナ禍、賑わいの無い街、疑うことから始まる人間関係など、暗い話題ばかりですが、こうした日常に光を照らすことが出来るのは、若者の行動とそれを支える地域社会ではないでしょうか。

本日、インタビューさせて戴きます岡学園トータルデザインアカデミーは、学生たちに専門的基礎知識を授業で積み重ねたのち、積極的に教室から飛び出して企業、行政とのプロジェクトに学生達が自らトライできる環境を整えています。学生たちが行動することで自信を付け、一人ひとりが主役となっていくカリキュラムを大切にしているとのことです。まさに、岡学園は長野のトップランナーとして、「若者の行動とそれを支える地域社会（教育環境）」を体現しています。

岡学園の想いとパワーを多くの人たちに知って欲しい。こうした地域での活動を広く伝えることが、『地域の論点』の役割であり使命だと考えています。

そこで、今回のインタビューは、岡学園の岡正子校長と長野プロデュース科1年の窪田さんにお話を聞いていきたいと思えます。

——まず岡学園について教えてください。

岡校長 1946年に創立された岡学園トータルデザインアカデミー（旧ドレスメーカー研究所）は、「右手に技術力」「左手に人間力」を育むことを目的に、2021年で創立75年を迎えます。過去延べ1万人以上の学生が卒業し、多くの卒業生が様々な分野で活躍しています。創立時より築き上げた「技術力」と「人間力」は、想いと共に現在へと引き継がれ、そしてさらなる進化を続けています。



岡正子校長

私は、「デザインをトータル的に学べるのが岡学園」だと思っています。なぜかと言いますと、デザインをひとつの視点として世の中全体を捉え考えられるようになることで、自ら課題解決のできる人材を育成していきたいからです。それは、私自身もデザインを学び、実践していく中で広く世界を見て、挑戦し挫折もしそうになりながらも今日までたくさんの経験をさせてもらったことに由来します。環境問題に関心を持ち、デザイナーであり教育者でもある自分にも何かできることはないかと、「持続的共生社会」に向けての活動を現在続けているのも、『デザインを軸に多くの環境や場所、人と関わったから』だと思っています。

こうした考え方をもとに岡学園では、身に付けた技術や知識が、いずれ自分の人生の道を切り開く「糧」となることを信じ、常に「今」の社会に通用する「実践力」を身につけることに重点を置いています。またその一方で、生徒たちひとり一人の「個性」や「想い」に寄り添いながら、しっかりとその「人間力」を伸ばし、可能性を成長させていきたいと思っています。本学が常に合い言葉としてきた『好きを仕事に！』は、単なる言葉だけのメッセージではありません。確かなこの「実践力」と「人間力」を両輪のごとく身に付けることで希望する道へと着実な歩みが始まるからです。

一度きりの人生に幼い頃から興味を持った「好き！」というものを趣味で終わらせることなく、その可能性にトライしていくこと。そして、これからの時代に自分らしく生き抜く力を身に付けて欲しいと心から思います。

——なぜ、ファッションからスタートした岡学園が「長野プロデュース科」を新設したのですか？

岡校長 1996年に校長に就任して以来、ファッションデザインだけでなく、デザインを通じた流通過程・販売戦略・クリエイティブ力など、総合的なスペシャリストを養成するために「総合ライフデザイン科」「ファッションビジネス科」「デザインビジネス科」などを次々と新設していきました。そして、2017年に長野プロデュース科を新設しました。長野プロデュース科を新設するまでの約20年間、教育の分野を広げて「総合的なスペシャリスト」をと謳っていましたが、より広くデザインの枠を超えた分野での人材を育てるべきではないかと考えるようになりました。そして、地域をプロデュースする能力を持った人材を長野にと思い新設に至りました。科名に敢えて「長野」を入れたのは、この学園の生徒たちと接していると本当に生まれ故郷である長野が好きなことが伝わってくるからです。そうであるならば、大好きな長野を創っていくという想いも込めようと入れています。しかしながら、新設から4年程経ちますが、まだまだ知名度は低いです。高校の先生などを含めてまだプロデュースをする、地域をデザインする、と言うことの意味を伝えきれていないと思うので、もう少し生徒とともに頑張らないとですね。

——それでは、続いて窪田さんお願いします。なぜ、多くの専門学校がある中で岡学園の長野プロデュース科を選んだのでしょうか？



窪田皓優さん

窪田 中学生の時は芸術が好きで、高校へ入ってからは建築を勉強しました。勉強をしているうちに自分の中で「デザインがしたい！」と思うのと同時に「長野で働きたい！貢献したい！」という気持ちも芽生えました。そして、岡学園のオープンキャンパスへ行く機会があり、そこで今の先生たちと出会いました。先生との距離感が近くて親近感が湧きましたし、授業が多くの企業と連携していて現場の声をよく聞けるということは、自分の長野で働きたい、貢献したいという思いにマッチしていました。さらに、デザインをしたいと思っていた自分に「地域デザイン」という領域は入学してみてもいいなという感じでした。

岡校長 嬉しいですね。新設 4 年で知名度はまだまだとお話ししましたが、入学前の高校生がこんな風に長野プロデュース科の紹介を感じ取ってくれているなんて、徐々にではありますが、私たちは積み上げてきているのだなと、彼の話聞いて実感しています。岡学園は、「産官学連携プロジェクト」を 2013 年から実施していて、学校外の評価をたくさん聞くことが出来ます。企業とのつながりは 120 事例を数え、生徒たちには大変良い経験になっています。

——窪田さんが地域デザインを通じて目指すものは何でしょうか？または大切にしたいことは？

窪田 大切なことは、「人と人のつながり」だと思います。目標は、「新しい観光を生み出すこと」です。現在、長野県の観光はコロナ禍もちろんありますが大変に厳しい状況です。この状況を何とか打破できないかと考えています。長野県は「大自然」という誇れる環境があります。自然という価値を新しい魅力として観光を盛り上げていきたいです。観光業は多くの人や企業、団体に関わるので、先ほどお話ししたように「人と人のつながり」がとても重要になりますので、積極的に「人」と関わっていき学んでいきたいと思っています。

岡校長 志しや思いが生徒と同じで本当に嬉しいです。普段はなかなかこういった機会はないので、生の声を本当にダイレクトに聞くことが出来て本当に良かった。やはり学校というのは「コーディネート役」なのだと思います。生徒の思いを受け入れ、力を引き出していく。「可能性を拡散させる」とそんなお手伝いがしたいですね。

窪田 学校で学んでいて、「踏み出す」ことが本当に大事だなと感じます。一概には言えないと思いますが、私たちの世代は直接的に意見を言えない世代だと私は感じています。SNS などの情報インフラの発達も一因だとは思いますが、心の中のどこかで「大人たちはどうせ受け入れてくれない」と思っているのではないのでしょうか？小さな頃から周りと同

じようにという教育を受けてきました。そうした「平均教育」の中で「空気を必要以上に読む」という弊害も出てきているのではないのでしょうか？岡学園では先生だけではなく、外部の多くの方とつながることが出来ます。だからこそ、勇気を持って思っていることを伝えて、そして多くのことを吸収していけたらと思います。

岡校長 私は自身の経験から「人は人によって磨かれる」と思っています。出会った人、感じたことを大切にしてほしいです。これは、岡学園の「現場主義」にも通じます。

——ありがとうございます。続いて、長野プロデュース科が目指す「デザインあふれる街づくり」について聞かせてください。

岡校長 私は、この「デザインあふれる街づくり」という言葉が本当に好きなんです。デザインがあふれる街は多くの可能性を持っています。デザインは何かを生み出すきっかけであり、化学反応を起こす核となるものだと思います。生み出すきっかけになるようなことをどんどん増やしたいです。岡学園とはこれを目指し創ることが究極的な目的であると思います。

窪田 「デザイン×街」は、多くの考えを生み、解決策を導いてくれるものだと思います。私たちの取り組みを見た人には、新しさや今までにない魅力を感じてほしいなと思います。

——それでは、これまで伺ってきた取り組みのひとつの形とも言える2021年4月より長野県立美術館で行う「My SDGs展」についてお聞かせください。

窪田 この展示会は、世界目標であるSDGsの考え方を広く認知してもらうことを目的としています。私たち若者とその活躍できる場を作り、可能性の拡散を応援いただく皆様と一緒に、私たちが「今」できることを展示会を通じてお伝えできればと思っています。

この展示会は、2021年2月に行われる岡学園の全生徒が作品を出す「制作展」の中から選ばれた作品が展示されます。私は、「福祉と多様性」をテーマに障がい者から見た世界を立体物で表現します。差別ある社会の価値観を少しでも変えることが出来る作品になるよう頑張って制作を進めています。2021年4月10日～5月16日まで長野県立美術館地下1階しなのギャラリーで開催されていますので、ぜひご来場をお願いします。

——素敵なコンセプトの展示会ですね。ぜひ伺わせて戴きます。さて、最後に同世代やこれからデザイン分野や岡学園を目指す人たちへメッセージをお願いします。

窪田 私と岡学園をつないでくれたオープンキャンパスですが、今は運営スタッフとして関わっています。岡学園は机上だけでなく現場でも学ぶことが出来るのが魅力です。わかりづらいと言われる長野プロデュース科を自分が伝えていくことが大事だと思っています。これからもどんどん長野プロデュース科を発信していこうと思います。ぜひ、オープン

キャンパスに顔を出してみてください。

——窪田さんありがとうございました。それでは岡校長、最後に一言戴けますでしょうか？

岡校長 私たちがデザインで出来ることは、大好きな長野から“ワクワク”を発信することです。それは、大好きな長野をもっと「可能性」あふれる街にすることです。

多様化する時代の中で、若きパワーを持った生徒たちが、人と地域をつなぎ、他にはない「モノ」や「コト」を生み出す「創造するチカラ」は、今後の地域活性化につながるエネルギーになっていくと確信しています。地財あふれる長野が大好きな街だからこそ、私たちはさまざまな出会いを大切に、これからもデザインの可能性をより多くの方々とともに創り上げていきたいと思っています。ぜひ、南石堂町商店街振興組合はじめ、地域住民の皆様とも“ワクワク”を発信していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

岡 正子 プロフィール

1998年、長野冬季オリンピックプログラムにて環境繊維（ポリ乳酸繊維）の衣装を発表。ファッションにエコロジーを取り入れた先駆者として国内外から注目を集め、2003年エコマコ（ブランド）をスタートさせる。2012年、ビジネス界のオスカーと言われるスティービーアワードでグランプリの国際ビジネス大賞を受賞。現在、岡学園トータルデザインアカデミーの校長を務め、人材育成にも力を注いでいる。



▲2021年4月10日～5月16日開催 岡学園「My SDGs 展」

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月10日にインタビューした内容をまとめたものです。

「地域の論点」 論点 2

長野市松代地区の地域活性化

～学生ボランティア活動から見えるもの～

ボランティア団体 Matsushiro JBT

Matsushiro JBT 結成のきっかけ

Matsushiro JBT は、長野市松代地区での環境保全活動や世代間交流などを目的としたイベントや催しを開催することで、松代地区の活性化を図り、地域社会に貢献し、多くの学生がボランティアに関わる機会をつくることを目的としています。

Matsushiro JBT には前身である「豊栄地域活性化委員会」と「西条地域活性化委員会」の活動がありました。それぞれの活動は下記のとおりです。

・豊栄地域活性化委員会

▪結成日 2016年5月28日

▪主な活動内容

①豊栄地域における奉仕活動の実施（ゴミ拾い・草取り・落ち葉はき・雪かき）

②豊栄地域におけるイベントの企画及び運営

③広報活動

④松代地区内のイベントへのボランティア参加 等

▪活動実績

①第1回皆神山春マラソンの企画及び運営

②第2回皆神山春マラソンの企画及び運営

③豊栄雪まつりの企画及び運営

④第1回世代間交流フェアの企画及び運営 等

主要メンバーである井出昌輝さんは、小学生の頃から豊栄をはじめとした地域を紹介する活動を友人と自主的に行っていました。自身で作成した豊栄地域のおすすめスポットを紹介するチラシや冊子を松代地区の社会福祉協議会に見せたところ、「ガイドをしてもらえないか？」と要請されることもありました。また、自主的な活動をしていく中で地域のポイ捨てなど環境面における地域課題について関心を持つようになり、この課題を何とか解決できないかと考えるようになりました。そこで、地域ガイドなどの広報活動や地域の環境課題の解決を目指す組織が必要だと感じて、「豊栄地域活性化委員会」を中学生の時に設立しました。

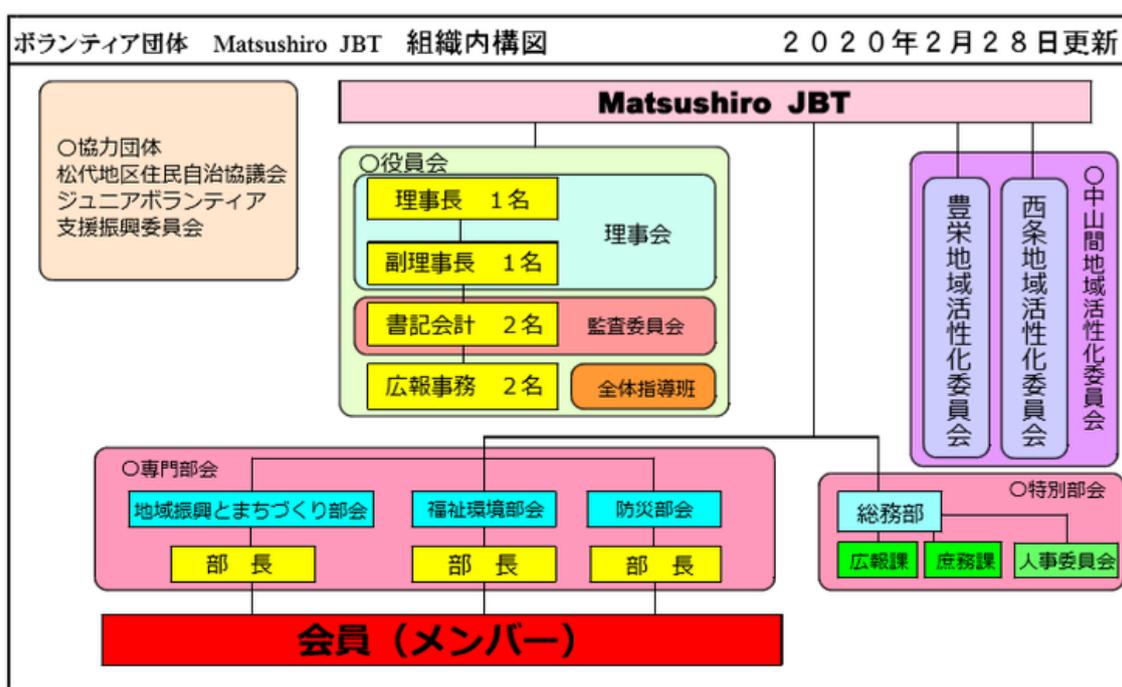
・西条地域活性化委員会

▪結成日 2017年10月25日

組織について

Matsushiro JBT 設立前の豊栄地域活性化委員会と西条地域活性化委員会は、それぞれ松代地区の社会福祉協議会にバックアップしてもらうことで活動をしていました。しかしながら、社会福祉協議会としても単体として継続的にバックアップしていくことは難しいといった事情もあり、Matsushiro JBT 設立後は住民組織である「松代地区住民自治協議会」が活動をバックアップしていくことになりました。Matsushiro JBT の組織図としては以下のとおりになります。

■組織図



理事長である井出さんは、「活動を続けていて継続性を担保するにはある程度の規模で運営する必要性を痛感していました。学生が運営する団体のため、どうしてもメンバーの入れ替わりが生じることになり、いかに息の長い活動が出来る組織になるかが両団体の課題でした。そこで、松代地区全体を活動領域とすることで参加できる学生数も増え、メンバーの増加にもつながり、入れ替わりのできる世代間の集まりになりました。いつも『自分一人が頑張ってもだめで、みんなでやっていく！』ということが大切』だと思い、自分がいなくなる先のことも見据えて活動しています。」と話しています。

各部会での取り組み

Matsushiro JBT では、3つの専門部会（係）を設け、それぞれが仕事を分担して行っています。専門部会のほかにも役員会や全体指導班、特別部会などを設置し、メンバーがそれぞれ役割を分担して活動することで活動の効率化を図っています。

地域振興部

この部会の活動は多岐にわたり、他団体からのボランティア依頼もこの部会が担当しています。

《主な活動内容》

- ①各種イベントの企画・運営（主体となって計画・発案・運営を行う）
- ②観光案内ボランティア事業
- ③他団体主催のイベント支援ボランティア
- ④その他諸活動

《活動理念》

松代地区の活性化を大きな目標として活動しています。主にマラソン大会やワークショップなどの松代地区の地域的且つ観光的な振興を図るための催しやイベントを企画・運営します。また、「エコール・ド・まつしろ倶楽部」「松代商工会議所」などの主催するイベントやお祭りなどでお手伝いボランティアとしてさまざまな活動をし、団体として地域に貢献し松代地区の活性化へつなげています。



▲ウォーキングイベントを主催



▲イベントのお手伝い

福祉環境部

この部会は、奉仕活動や清掃活動などの環境保全活動を主体となって行うほか、福祉の分野で松代地区がよりよい暮らしやすい地区になるように活動を行っています。

《主な活動内容》

- ①奉仕活動・清掃活動（ゴミ拾い・草取り・落ち葉はき・雪かきなど）の実施日や内容を検討し、計画発案する。
- ②発案した計画のもと、作業を主体となって行いメンバーへ共有を図る。
- ③イベントや催しなどで福祉に関わる活動を実施する。
- ④社会福祉協議会から依頼されるボランティアに主体となり参加する。（福祉バザーや福祉大会など）
- ⑤学習支援ボランティアとして、松代地区の児童センター・児童館・子供プラザ・保育園・

幼稚園などを訪問し、学習の支援や一緒に遊ぶなどの活動を主体となって行う。



▲福祉環境部によるごみ拾い



▲福祉環境部による学習支援ボランティア



▲防災部による救命講習の様子



▲防災部による台風時による復旧作業の様子

防災部

この部会は、地震や台風・水害などに備え災害に強いまちづくりを目指し、防災や減災などに関わる活動を多岐にわたり実施します。

《主な活動内容》台風 19 号水害での経験を活かしています。

- ①大規模災害などが発生することが予想される場合（台風の進路が長野県に接近する見込みである場合など）に、理事長と相談し万が一に備えた対応を検討する。（場合によっては緊急会議の実施も検討する）
- ②大規模災害などが発生した際、団体としての対応・今後の活動を検討するため、被災状況の視察を早急に行う。（できる限り発災翌日など早めに実施する）又、視察時に被災状況の把握に加え、可能な限り記録撮影を行う。
- ③防災訓練などに積極的に参加する。
- ④防災などに関わるイベント・ワークショップなどを企画・運営（開催）する。
- ⑤防災意識の向上を目指した様々な活動を実施する。

- ⑥年1回長野市消防局が実施する「普通救命講習」を受講する。また、防災部以外のメンバーにも受講するように呼び掛ける。(受講する日程なども防災部が検討する)
- ⑦大規模災害が発生した際、「災害ボランティア」として主体となって活動する。
- ⑧大規模災害が発生した際、復興に向けた様々な活動を実施する。

メンバー募集について

2020年11月15日現在(インタビュー時)、メンバーは16名(高校生12名、中学生4名)で、メンバー集めが課題になっています。メンバー募集のパンフレットを作成しての配布活動や地元松代中学校の掲示板に案内を出すなど、一定の効果はありましたが、より自分たちの活動を地域に周知していくことが大切だと思っています。

今後の課題と方策

井出昌輝さん

組織的な課題に取り組んでいけたらと思います。自分は代表(理事長)をしているので、私が高校を卒業して抜けた後に継続的に組織が展開させていくにはどうすればいいのか日々考えています。自分はこうした地域活動が好きなので負担には感じませんが、自分以外の方だと負担に感じることもあると思いますし、そうは言っても無理やりお願いしていくわけにはいかないのが悩んでいます。

そうなりますとやはり主体的に活動するメンバーを増やし、多くの人で共有し分担しながら活動していく体制を整えていくことが肝要なのだと思います。私としては広報活動や発信する機会を多く作り、中高生を中心とした若い人たちにまずは広く知ってもらおうということをやりたいと思います。

高崎悠輝さん

松代地区の課題を挙げるとするとリピーターがつきにくいことがあると思います。毎年10月に「松代藩真田十万石まつり」が開催されており、この松代地区を挙げての一大イベントにはリピーターがついていると思いますが、街にはリピーターがついていないと思います。これを改善していかないことには何も始まりません。方向性がきちんと示された街づくりが必要です。松代地区という特性を考えればやはり景観がキーポイントになると思います。長い土堀に囲まれた武家屋敷や松代城を守るように配置された寺社、町を流れる水路など城下町の面影が多く残っています。松代は同じ真田ですが上田城のように観光客をアイキャッチ性高く引きつける要素は弱いですが、歴史ある住宅や寺社が多く残り、「泉水路」と呼ばれる隣接する家の泉水から泉水へと流れる全国でも珍しい形態の水路もあり、学びながら周遊を楽しむ少し玄人好みの街が形成されています。こうした点を考慮しながら「観る×食べる×泊まる」をトータルとして提供していければ道は見えてくるような気がしています。また、若い私たちの世代が長野市などの行政側にどう働きかけを行って一緒にやって

いけるかも今後の鍵になると思います。

倉嶋奏弥さん

高崎さんと重複しますが、松代はイベントの時は人が集まりますが普段は人がとても少ないです。松代地区以外の人から話を伺うと知名度が低いと感じます。特に高校生は顕著です。私は井出さんや高崎さんより後輩になるので、こうした知名度を上げる活動を先頭に立ってやっていきたいと思っています。

これからやっていきたいこと

井出昌輝さん

すでにお話していることと重なりますが、活動するメンバーを増やしていきたいと思っています。それには周知していかなければいけませんので広報活動に力を入れたいです。具体的には、同世代に共感を抱いてもらえるような広報イベントや活動を体験してみることができるワークショップも面白いと思います。

高崎悠輝さん

私たちは活動に参加することのメリットを伝えきれていないと思います。私は真田丸イベントのボランティアスタッフとして多くの人たちと触れ合い楽しいと思えたことが、現在のように主体的に参画するようになったきっかけです。私にとってメリットだったのです。活動を通じてメリットを感じてもらえるのであれば、**Matsushiro JBT**に限定しなくても良いのではないのでしょうか。まずは実体験をしてもらおう。それにはもう少し広い視野で動けていければと思います。

倉嶋奏弥さん

私はイベントを増やしてどんどん人を呼びたいです。ボランティアスタッフを募れるような大きいイベントをやっていきたいです。

同世代へのメッセージ

井出昌輝さん

こういった活動は強制をするものではないですが、やってみたいと思っていて出来ない人やどう動いたらいいか分からない人がいたとしたなら、ぜひ勇気を振り絞って一歩を踏み出して欲しいです。**Matsushiro JBT**に限らなくても良いと思いますが、私たちもよろしくお願いします。連絡お待ちしております。

☒ **Matsushiro JBT** お問い合わせ先 メール : matsushirojbt@gmail.com

高崎悠輝さん

私はこうした活動やボランティアに関わって、感謝されることや喜ぶ姿を見ることができたのは自分の人生で大きなことでした。ボランティアでなくてもこうした体験を同世代の人にして欲しいと心から思います。Matsushiro JBT でも体験できるかもしれません。よろしくをお願いします。

倉嶋奏弥さん

同世代の皆さんにはボランティアのイメージを変えて欲しいです。

× 無償で面倒くさいこと

↓

○喜んでもらうという喜びを知ることができる

ぜひ、経験してもらいたいです。

最後に

ある小学生が「私、中学生になったらボランティアしてみたいんだ！」と笑顔で話していたことを聞きました。自分たちの活動はまだ表にはよく見えてきていない部分もありますが、少しずつでも活動は根付いてきているとも思います。

自分たちの想いに正直にこれからも活動を続けていきたいと思っています。

長野市民新聞

1月7日(木)

長野市民新聞社

編集・管理

編集制作センター
〒380-0943 長野市安成町 1029-1
フリーダイヤル
0120-06-5511
TEL 222-5511 FAX 222-5500
shimizu@avis.ne.jp

南長野支社
〒380-0903 長野市南長野 1250-3
TEL 209-5983 FAX 209-5977
minamis@gen.janix.or.jp

広告
〒381-0024 長野市由良町 118
TEL 251-1545 FAX 222-2533
©長野市民新聞社 2021

松代の中高校生受賞

松代地区の中高校生18人へ贈るボランティア活動表彰。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。



松代地区の中高校生18人へ贈るボランティア活動表彰。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。

ボランティアの全国表彰 復旧支援活動などで

松代地区の中高校生18人へ贈るボランティア活動表彰。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。



プロテック賞
ボランティアの全国表彰。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。表彰対象は、ボランティア活動に貢献した中高校生。



川中島町原に卓球場

川中島町原に卓球場。新設された卓球場に立つ玄太さん。玄太さんは、この卓球場の開設に大きく貢献した。玄太さんは、この卓球場の開設に大きく貢献した。



新設した卓球場に立つ玄太さん

川中島町原に卓球場。新設された卓球場に立つ玄太さん。玄太さんは、この卓球場の開設に大きく貢献した。玄太さんは、この卓球場の開設に大きく貢献した。

新設された卓球場に立つ玄太さん。玄太さんは、この卓球場の開設に大きく貢献した。玄太さんは、この卓球場の開設に大きく貢献した。

株式会社 ミワ商事
先 借武
食品包装・容器 厨房関連資材
工業用資材全般 のり類各種
〒381-0024 長野市由良町 118
TEL 251-1545 FAX 222-2533

▲ボランティアの全国表彰を受けました
※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が 2020 年 11 月 15 日にメンバーである井出昌輝さん(高校 2 年生)、高崎悠輝さん(高校 2 年生)、倉嶋奏弥さん(高校 1 年生)へインタビューした内容をまとめたものです。

「地域の論点」 論点 3

商店街の復興による長野市の地域活性

長野県長野高等学校

伊藤 結

はじめに

長野高校では、令和元年 4 月より文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業校（グローバル型）」に指定されています。その中で、「長野のグローバル戦略を探る（1 学年）」「SDGs から見た長野のグローバル戦略（2 学年）」という授業を総合的な学習の一環として実施しています。この取組では、私たち生徒が研究テーマごとグループを作り、県内の企業・団体や行政機関を訪問するフィールドワークを実施し、より研究を深めています。

私は 1 年生の時に「軽井沢町と長野市の比較」をテーマにグループ研究を行い、軽井沢町の特色である商業活動としての観光業について長野市との比較を行いました。そして、2 年生である今年度は、昨年度のグループ研究をもとに自身でテーマを決め個人研究を進めてきました。

1 要旨 (Summary)

皆さんは自分の地域が活性化していると思いますか。今地方では過疎化や少子高齢化が進み、廃れてしまっているという印象を受けることも多いのではないのでしょうか。地域活性化を目指した研究をする中で、私は身近な「商店街」に注目し、地方の商店街を盛り上げることで活性化につなげたいと考え、フィールドワークを通して商店街について学びました。その結果、商店街衰退の原因や抱える課題に加え、商店街ならではの良さや取り組んでいるイベントなどプラス面を見つけることができました。そこで、商店街を復興させるために必要なのは、情報発信の工夫なのではないかと仮説を立て、プロジェクト発表会を通じて商店街の告知活動を始めました。

2 序論 (Introduction)

(1) 研究背景

①長野市周辺のエリアで普段生活をする中で、地域としての活動や活発さをあまり感じないことを受け、長野市の地域活性をテーマに研究を開始。課題を感じる場所に挙げられる一つとして、長野駅周辺の商店街があり、そこに注目して地域活性を目指す。

②長野市において、一番栄えているのは長野駅前だといえるが、長野駅前から一步出た長野駅周辺は人通りもそれほど多くなく、活性化しているとは言い難い。そこに位置する商店街の一つに南石堂町商店街がある。南石堂町商店街へフィールドワークに行くにあたり、商

店街復興のための課題として二つの仮説を立てた。

- 1) 近郊住民にとって魅力的なイベントが行われていない。
- 2) 店舗情報やイベントの告知などの情報発信がうまくなされていない。

仮説の2)において私は、去年行った軽井沢町役場へのフィールドワークを通じて学んだことを参考としている。「地域活性を目指すためには、新しい活動を取り入れることも重要だが、今ある活動に地域住民が参加し、住民の意見交換の場となるコミュニティを増やすことが低コスト低労働で可能な活動の第一歩となる」(軽井沢町役場 中山様)そこで課題となるのが、どのようにして活動を周知させ、参加者を募るかということであり、この仮説を加えた。

③先行研究で、低コストで実現可能な取り組みとして「100円商店街」や「バル」「まちゼミ」が商店街活性の三種の神器と注目を集めていることを知る。しかしこのコロナ禍で行うのは難しいと予想されるため、やはり情報発信面を中心に研究を進めるべきと判断。

(2)研究目的

この研究を通じて長野駅周辺商店街が栄え、長野市が活性化した場合、観光客や他地域からの移住者の増加、若者の流出の減少などが見込め、今までにない交流や経験が望めるほか、過疎化や少子高齢化社会の長野県の現状を克服することにもつながると考えられる。

また、地域としての活動が増え、意見交換の場となるコミュニティが増えることはもちろん地域住民や私たち高校生の暮らしやすさにつながる。

3 研究手法 (Methods)

(1) フィールドワーク I

南石堂町商店街にフィールドワークに行き、事務局の宮下様にお話をお聞きする。仮説1)、2)の内容を中心にインタビューし、南石堂町商店街の現状をとらえ、解決策を考察する。

(2) フィールドワーク II

一回目のフィールドワークの時に伺うことができなかった、南石堂町商店街ならではの良さや魅力についてインタビュー。実際に商店街にある店舗を回り、商店街についての知識を学ぶ。

4 結果・考察(Results & Discussion)

*フィールドワークなどの研究方法ごとに結果・考察を記す。

(1) フィールドワーク I

仮説1)、2)をふまえ商店街の現状を学ぶ。

1. 各地商店街が廃れてしまう原因について

商店街は設立当初、近郊住民のための食材や日用品の提供の場として発展。

しかし、大型スーパーが登場、自家用車が大衆化

⇒遠出が可能になり、人々の日用品の供給源は大型スーパーに。

反対に商店街は車で来るようにできていない。(駐車場がないなど)

⇒客足の減少や客層の高齢化

◎商店街を取り巻く環境の変化によって、各地の商店街は廃れてしまった。

2. 現在の南石堂町が抱える課題

リピーターの減少と高齢化、店舗経営者の高齢化および継承者問題、空き家対策、など

⇒南石堂町商店街振興組合は、先手を打って昭和46年に駐車場を設立。よって駐車場問題は解決。

3. 南石堂町が行っているイベント

・NAGANO 善光寺よさこい (周辺5商店街共同実施)

・蟻の市 (長野市びんずる祭り前日・前々日開催)

・e-sports 大会

・「地域の論点」発行

⇒仮説1) 近郊住民にとって魅力的なイベントが行われていないにおいて、南石堂町では魅力的なイベントは行われていると判断できたため、仮説2) に焦点を切り替える。

4. 商店街は振興組合が各店舗から集めた徴収金で活動をやりくりするため、企業とは違い、情報発信のための資金を作るのが難しい。

⇒仮説2) 店舗情報やイベントの告知がうまくなされていないことが商店街の課題に一致。

◎よって、商店街の情報発信に焦点を当て、南石堂町商店街の活性を目指す。

イベントの告知方法

(2) フィールドワークⅡ

フィールドワークⅠをふまえ、商店街の情報発信に貢献できないかを考える。

⇒現在商店街がターゲットにしていない高校生を対象にした情報発信を行い、高校生が商店街に来るきっかけをつくりたい。

よって、まずは私が商店街について学ぶ。

1. 南石堂町商店街ならではの良さ

「昔懐かしい人情味あふれる商店街」(南石堂町商店街振興組合事務局・宮下様)

商店街でしか感じられない人と人との繋がりなどを強みとし、商店街のアピールポイントを考案。

人気店や隠れた名店などを教えてもらいまとめる。

2. 告知方法について

高校生の私にもできる情報発信の方法についてアドバイスをもらう。

当初紙のパンフレットなどを視野に入れていたが、コスト面に問題があるため無料ホームページ作成アプリなどが適すると考えた。

3. プロジェクト発表会での商店街の告知

研究の発表の場として設けられたプロジェクト発表会(長野高校)での発表時に南石堂町商店街の紹介を取り入れた。宮下様からお聞きした情報をもとに、高校生に魅力を感じてもらえる店舗を選び、写真などとともに発表。何人かの生徒から印象に残ったと言ってもらえた。

4. 商店街紹介パンフレット作成

無料パンフレット作成アプリを使用し、商店街のオンライン広告を作成。高校生の目線から商店街のおすすめ店舗を紹介する。

南石堂町商店街
昔懐かし 人情味あふれる商店街を歩いてみてはいかがですか？

西沢餅屋



駅前で人気の老舗。柔らかいお団子と季節の味のおやきはすべて自家製。売り切れ次第終了のためお買い求めはお早めに。

JR長野駅より徒歩5~6分
長野駅（長野電鉄）から330m
営業時間 8時30分~18時00分
定休日 不定休

そば八



知る人ぞ知る駅前の隠れた名店。地下のおしゃれな店内でいただく、素材にこだわったお蕎麦の風味は最高。善光寺前のお蕎麦と食べ比べてみては？

JR長野駅より徒歩5分
長野駅（長野電鉄）より312m
営業時間 11時30分~15時00分
18時00分~21時00分
定休日 日曜日、祝日、不定休

ボスコ



市内イタリアンの先駆的存在。地元のものをより美味しく、という願いのもと、県産の食材にこだわったイタリア料理は絶品。

営業時間
11時30分~15時00分 18時00分~22時00分
(木,金,土) 18時00分~23時30分
定休日 不定休

↑ 作成した紹介ページ (<https://minamisidou.jimdofree.com/>)

5 結論・展望 (Conclusions)

誰でも情報を受け取ることができる時代、だれでも情報発信ができるこの時代、特に若者同士の情報交換は非常に容易なものと考えられます。つまり、若者が商店街に魅力を感じるきっかけを作ることが課題解決の第一歩になると考えます。しかし商店街側では、ターゲットの年齢層に若者、とくに高校生を組み込む余裕はなく、情報発信には費用面で限界があることがわかりました。

そこで今回は、フィールドワークでお世話になった私が高校生と商店街の間を取り持つことを考えました。「高校生をターゲットにするには、高校生の協力が必要。」「商店街では大きな活動をするのは難しい。そのためいろんな人との地道なつながりを大切にしていきたい。」という宮下様のお言葉もあり、すこしでも商店街活性に協力するため、プロジェクト発表会の場を活かした商店街の告知や、パンフレットの作成などに携わり活動したことで、今後の人生にも役立つ貴重な経験をすることができました。

皆さんの地域、身近な商店街にも良い点、自慢できる点がきっとあると思います。新しく大きなことをするのは難しくても、今ある地域の特徴を最大限に活かし、アピールしていくことが、地域を活性化させるために大切な力になると思います。まず若い高校生の私たちが地域に興味を持ち、好きになり、地域のためにできることを考える。地道なつながり、小さな努力の積み重ねが地域を応援する。簡単なことのように難しいことです。しかし私は今回のフィールドワークと研究を通し、地域のつながりに携われたことで長野市がもっと好きになれました。活性化の一步にはほど遠いですが、商店街に少しだけ貢献もできました。この論文を読んだ誰かが、自分の地域に置き換えて活動をしてくれたなら、それは私が得た小さなつながりを誰かに託すことに成功したということです。ぜひ、自分の生まれ育った町について考えてみてください。

この経験をもとにして

この経験は私にとって大変大きなことでした。研究を始めた頃は積極的になれない自分がありました。しかしながら、多くの方からお話を伺い、研究論文や新聞記事などで学んでいくにつれて多くの発見があり、私はいつの間にか研究に積極的になっていました。おそらくですが、知ることや考えることが「楽しい」と感じたのだと思います。フィールドワークでは、先生以外の大人たちと話す機会が多くありました。高校生にとって、先生以外の大人と家族以外で話す機会はそれほど多くなく、本当に良い経験をさせてもらいました。

また、私はこれまでに自分でここまでやり切れたことはなかったので、今は本当に充実感でいっぱいです。研究成果はもちろんですが、「何でもやってみることが大事」ということを経験できたことが、今後の私にとって一番ためになったことだと思います。この経験を活かすことが出来るよう、今後はたくさんのことにチャレンジしていければと考えています。いつかは地元である飯綱町で世代間をつなぐ役割を果たしながら、今ここにあるものの価値を十分に伝えられるような情報発信を中心とした地域活性が少しでも出来たらと思います。

す。

最後になりますが、私は教師になることを目指しています。今回、さまざまな地域に出ていくことで多くのコミュニケーション機会があり、多くの論文や書籍、新聞記事などを深く読み込むことで、一つの事象においても一面的ではなく多面的な関係性や捉え方が存在することがわかりました。そうした中、考え抜いた上で一つの実績を作れたことが充実感につながっています。将来一緒に学ぶことになる生徒たちにこうした経験を伝えていけたらと教師になりたいという目的意識がより明確になりました。

※本稿についてのデータ及び肩書等は執筆時の2020年12月現在のものです。

※表現及び言い回し等は執筆者の原稿を活かした形で掲載しています。

※本稿は、提出いただいた原稿をもとに南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2021年2月24日にインタビューした内容を追記したものです。

コラム 道端に咲く独り言

「地域プロジェクトマネージャー制度」

2021年度より「地域プロジェクトマネージャー¹」制度が導入されると言います。これまでに自治体が受け入れてきた地域おこし協力隊とは別に、地域・行政・民間・外部関係者をつなぎ、調整や橋渡しをしながら実質的にプロジェクトをマネジメントできる「ブリッジ人材」を自治体が雇用する場合、国が財政支援するという制度です。

これまで、地方へ移住する際などに、まず地域に入る足がかりとして「地域おこし協力隊」制度がありました。2009年度に「都市部の若者の地方への定住移住を図る取り組み」として始まった制度で、地域の人手不足や地方創生の後押しもあり年々広がりを見せてきました。

ところが、協力隊の多くは20～30代であり、任期が限られることや給与も200万円前後のケースが多く、30～40代のキャリア層にとっては応募しづらい側面があると指摘されていました。しかし、いよいよ人材不足の進む地域において、基幹事業やサービスを中心になって担える人材がなお必要性を求められ、それなりのキャリアや能力、年齢の人材を迎えるには、それに応える条件面を整備する必要がありました。

そこで、新たに創設される「地域プロジェクトマネージャー制度」では、雇用にあつる経費を対象に、650万円／人を上限に自治体に対して特別交付税措置（1市町村あたり1人を上限）が用意されることになりました。このポジションに求められる人材像は、まさに会社という中間管理職であると考えられます。行政の仕事の最終決定権は首長や議会が持っていることがほとんどのため、その下で現場を取り仕切つて関係者をつなぎ、有機的にものが動く体制を整えてくれる人材というイメージかと思ひます。

こうした発想は必要で地域には「調整役」となる人材が不可欠です。この制度を見ると1自治体に1人となっていますが、地域活動を有機的に動かす体制を整えるには、自治体の中だけで動いてできる時代でもないですし、課題を解決するためには外部の自治体や企業、もっと言うと他県へまで調整に動くことも想定しなければならないほど社会は変容しています。

こうして考えてみると、こうした人材と相互に協力し合い取り組んでいける組織が必要ではないかと思ひてきます。この組織（団体）がシンクタンク的機能としての“頭脳”とそれを実践するための運用機能としての“手足”を兼ね備えることで多くの「ブリッジ人材」と地域を盛り上げることにつなげられます。これからは一つの市町村でビジョンや事業を実施する必要は薄れ、プロデュースする組織と人材が間に入ることで広いエリアで多角的につながり、強みを補完しながら事業を行い、生活空間の質を高め、地域に根ざしたビジネスを創出し、域内経済を豊かにしていくことがより重要性を増すと思ひます。こうしたエリアを限定しないプロデュース組織の議論がより起こつてくれば面白いと思ひます。

¹ https://www.soumu.go.jp/main_content/000724700.pdf 参照。

「地域の論点」 論点 4

「湯の丸」から金メダリストを生み出したい

東御市湯の丸高原スポーツ交流施設

屋内運動施設（特設プール）

管理責任者 小山 和晃

「東京オリンピック 2020」に関わりたい

私は幼いころから水泳をやっており、社会人になってからも大会参加や競技会運営に携わってきました。私にとって水泳に関わっている時間は何よりも代えがたいものです。社会人になり仕事を精一杯やりながら水泳も楽しんでいた 2013 年 9 月 8 日、IOC 総会で 2020 年のオリンピック・パラリンピック（以下、「オリ・パラ」）の開催都市が東京に決まりました。この時から私は漠然とどんな形でもいいからオリ・パラに関われたらと思っていました。

私の大学の後輩に北京・ロンドン・リオデジャネイロパラリンピックに出場し、銀メダルと銅メダルを獲得している木村敬一²選手がいます。彼とは普段から仲良くさせていただいて、オリ・パラと関われることについて相談していました。しかし、やはりなかなか難しいもので、この相談が直接実ることはありませんでした。

現職に就くきっかけ

ある時、親しくしている会社の同期が家業を継ぐために退職することになり、家業を一緒にやらないかと誘われたことがありました。その時はお断りしましたが、これが転職を考えるきっかけとなりました。その後、水泳関係の先輩に「好きな水泳に関わる仕事がしたい」と相談しました。すると、相談したことも忘れかけていた 2019 年 2 月頃、その先輩から東御市にできる水泳施設で水泳に詳しい人材を探しているという話を聞きました。そこは、トップアスリートの高地トレーニング施設で、オリンピック内定選手や候補選手が活用するとのことで、まさに希望していた「水泳に関われる仕事」であり、「オリ・パラに関われる仕事」でした。まず、設置者である東御市の担当者と面談を行いました。その後、特設プールを管理する株式会社オーエンス³にも話が伝わり、会社側は水泳に詳しく選手特性がわかる人材を探していたようで、私はその条件に偶然にも一致して、管理責任者にしても良いのではないかと、話がトントン拍子に進んでいきました。こうして、2019 年 10 月 1 日から今の職場で働くことになりました。

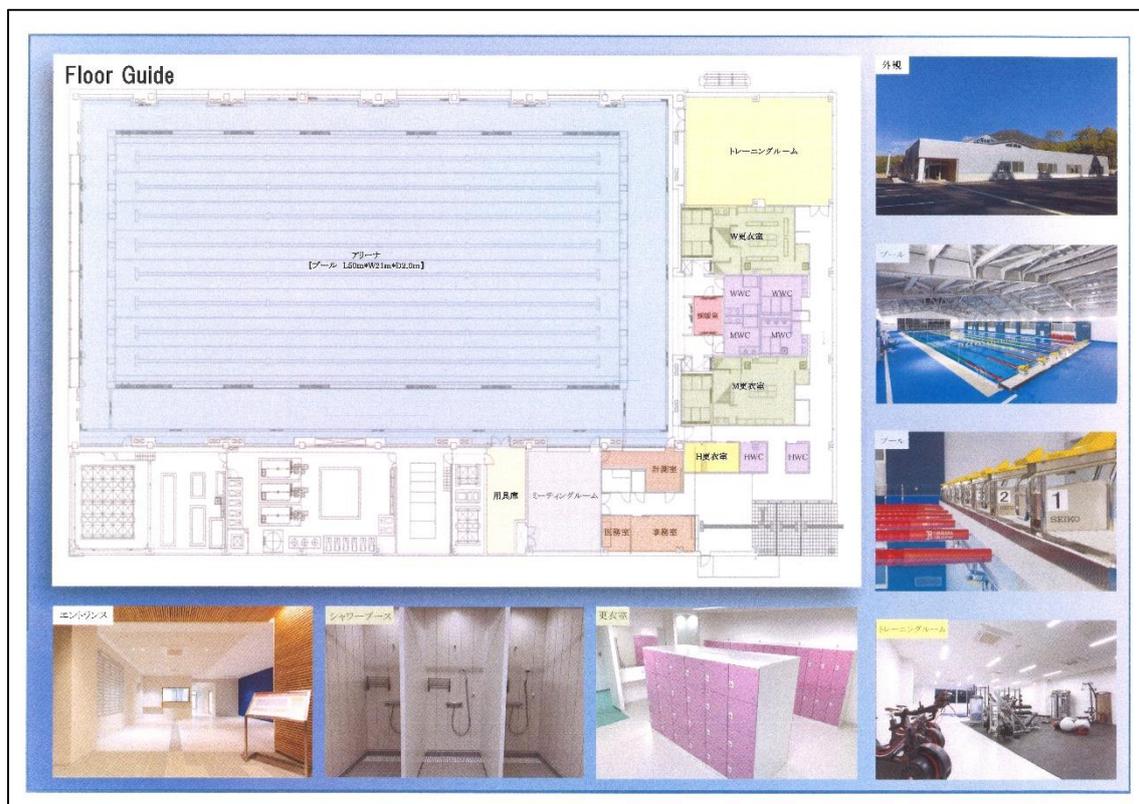
²日本の競泳選手。2008 年北京パラリンピック・2012 年ロンドンパラリンピック・2016 年リオデジャネイロパラリンピックの競泳競技に日本代表として参加し、ロンドンとリオデジャネイロ大会では銀メダルと銅メダルを獲得した。日本パラリンピアンズ協会の理事も務める。

³東京都中央区に本社を置くビルメンテナンス事業を主業務とする会社であるが、指定管理者としての多くのスポーツ施設の実績もある。（参照：<https://www.o-ence.co.jp/works/results.html>）

GMO アスリーツパーク湯の丸について

一言で伝えるとすれば、「アスリートのための高地トレーニング」施設です。高地トレーニングは、酸素濃度の薄い高地でトレーニングを行い、心肺機能や筋肉機能を向上させることで、総合的運動パフォーマンスも向上させていくというものです。日本のトップアスリートたちも海外の高地に出向き練習を重ねることで好成績を残してきています。ただ、費用負担が大きく、移動や海外生活でのストレスといったリスクがあるのも事実です。何とか国内で高地トレーニングができないかという要望に応えたのが、「GMO アスリーツパーク湯の丸」になります。本州の中央部に位置する長野県東御市にあるため、東からも西からも無理なくアクセスが可能です。東京からの距離は約 200 kmで北陸新幹線や上信越自動車道が利用しやすく、移動時間は最短で約 2 時間 30 分ほどです。

日本陸上競技連盟や日本水泳連盟など、競技関係者からの想いを受けてできたこの施設は、東京オリ・パラで多くのメダリストを出すことが喫緊の目標です。そのために、日本で一番高い所に 400mトラックを作り、標高 1,735mの高地トレーニング用 50m屋内プールは日本初になります。その他、バリエーション豊かなトレーニングメニューを組めるよう、ランニングコースやトレーニングルームが用意されており、バックアップ体制は万全に整っています。



↑施設のフロアガイドより

現職での役割

私は屋内プールの管理責任者をしています。指定管理者の株式会社オーエンスは、ただ施設を管理するだけの人材ではなく、選手の特徴が理解できてコミュニケーションを取ることができる人材を探していました。前述したとおり、私は水泳をずっと続けていたので偶然白羽の矢が立ったという訳です。タイミングや運が本当に良かったと思っています。

さて、この施設は出来たばかりですのでルールやマニュアルなどが何もない状態でスタートしています。管理責任者として1から作っていかねばなりませんので、私の役割はこの施設の運営を軌道に乗せることだと思っています。

現在では、この施設を利用されるのは主に選手などの現役アスリートとそのスタッフです。選手やスタッフは、国内はもちろん海外の多くの施設を利用して見えています。私たちにとっては良い意味で厳しい目を持っている良いお客様です。施設として選手の合宿などをサポートする立場として、可能な限りコミュニケーションを図り、練習しやすい環境を整えられるよう努力していますが、お客様から教えられる部分はとても大きいものです。方針を示しながらマニュアル作りをしています、日々試行錯誤であり、うまくいかない場合もあります。そうした中で、誠心誠意こちらが考え行動していると、お客様は喜んでくれますし、視野を広げてもらっているという表現が適切かと感じています。私が良いと思っで行っているサポートが実際は良いものとは限らない場合も当然ありますので、こういったあたりはコミュニケーションを取りながら利用される方にとってより良い施設となるようお客様と一緒に作り上げているという感覚です。



↑屋内プール写真

コロナ禍での想いについて

皆さん、どの業界も今回のコロナ禍は想定外のことであり、苦しい状況に立たされていることは同じだと思います。本来であれば、2020年の2月3月は4月の日本選手権に向けて、この施設でトップアスリートたちの追い込み練習が予定されており予約はいっぱいで

した。ご存じのとおり、東京オリ・パラは延期され、日本選手権も中止になったことから予約はなくなり、この施設も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4月5月と完全休館となりました。6月には再開しましたが、6月7月の施設予約は皆無でした。施設がスタートして私の勤務も1年間経ってはいますが、当初想定していた業務をやっているようでやっていない状況で一連の流れをつかめなかったというのが今の正直な感想です。しかし、そんなことばかりは言ってられません。延期された東京オリ・パラに向けて選手は動いています。私たちも必要とされたときに必要以上のサポートをできるように、こうした状況下であっても準備していかないといけないと思っています。

今後について

私には仕事のモットーがあって、それは心遣いであり、おもてなしの心であり、そうして真摯にお客様と向き合ったことで「湯の丸のおかげで良い結果が出た」と言ってもらえるような仕事をする事です。

私は、「一期一会」という言葉が好きで人との出会いを大事にしています。これまでの私は人との出会いやつながりによってやってこられたと言っても過言ではありません。今の仕事に就けたのも水泳をやっていたことが大きかったですし、前職での経験や教えてもらったことなどが今に生きています。オリンピックアスリートとパラリンピックアスリートとを隔てなく、心を見つめて接することができるのは、前述した木村敬一選手との関係性がとても大きいです。アスリートの皆さんから、「気持ちも含めて理解してくれる人がいて心強い」と言っていただきますが、それは多くのアスリートの皆さんから学ばせてもらっているからだだと思いますし有難いことだと思います。

今後についてですが、東京オリ・パラが終わっても私の仕事は当然続きます。これは私の個人的な見解ですが、おそらく東京オリ・パラが終われば、選手に対するスポンサー数は減ることが考えられますし、そうすると施設の利用者も減るだろうと想像できます。減るかも知れませんが、この施設の需要がなくなることはないと思います。常に需要はあるはずです。トレーニングという意味ではプールを使うのは水泳選手だけではないかも知れません。

せっかく選手たちに自分の視野を広げてもらったので、海外含めて他の施設の良い点はどんどん取り入れて、練習ができる施設ということだけではなく、気持ちなどのコミュニケーションも含めたトータルケアができる施設を目指して頑張っていきたいと思っています。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年10月31日にインタビューした内容をまとめたものです。

「地域の論点」 論点 5 新時代を活性化するために

小島 實

新型コロナウイルス感染症の流行は、世界的に流行し、外出及び交流自粛、手洗いの徹底、マスク着用が奨励されることになりました。私はこうした社会情勢の中で何か形のあるものを発信しなければと思いながらも無為に過ごしていました。しかし、これではいけないと地元の地籍や道路、用水などの歴史環境をもとに地域の活性化を考えてみよう、「昔の南石堂町は…、妻科村は…、善光寺門前町の発展の仕方は…、善光寺平の用水は…、裾花川の氾濫の歴史は…」などと思いを浮かべていました。そうしたところ、南石堂町商店街振興組合で『地域の論点 2020～在野の知的財産の集積から見えるもの～』が発表されました。拝読しましたが大変分かりやすくなる取り組みだと思いました。私はこの出会いを契機として、より良い将来になるよう自分の想いをこの『地域の論点』に載せたいと思います。私が考える地籍、地形、歴史を基軸として、新時代の活性化について考えていきます。その上で具体的方策として、「地域の危険を知る」「災害から命を守る」「地域のつながり」「三密を避けたイベントの開催方法」などに発想を転換していき、地域の課題を解決していくべきだと考えています。

■論点の前段として「課題を知ろう、調べよう」

1. 南石堂町を中心とした年表

妻科神社の誕生（創建は不詳）	古代 691 年「持統 5 年」
妻科村石堂組は北国街道に沿う街村で、事実上善光寺町の一部とみなされていた。	
妻科村石堂組の南端に長野駅舎新設 信越線開通	近代 1888 年「明治 21 年」
市制施行により石堂町	近代 1897 年「明治 30 年」
石堂町が南北及び末広町に分割	近代 1908 年「明治 41 年」
南石堂町商興会の誕生	現代 1949 年「昭和 24 年」
南石堂町商興会で感謝祭である「蟻の市」開催	現代 1956 年「昭和 31 年」
主要道路の交通規制	現代 1962 年「昭和 37 年」
南石堂町商店街振興組合誕生 共同駐車場整備	現代 1971 年「昭和 46 年」
南石堂町商店街振興組合創立 30 周年記念誌発行	現代 2002 年「平成 14 年」
南石堂町商店街振興組合 地域の論点公募	現代 2019 年「令和 元年」

2. 「小字」など登記に用いる表記から読み取れるもの

現在、行政上の「大字南長野北石堂町・大字南長野南石堂町・大字南長野末広町」で区分されていますが、「小字」が使用されている場合、その土地の周辺や災害を受けていた状況を土地名に表しています。従いまして、小字名を聞けばその場所が分かったそうです。

また、善光寺平の南長野方面一帯は、緩傾斜地で用水は西方面の裾花川から東方面の千曲川へ流れていましたが、善光寺平には川土手が少なく、大雨が降るたびに流路が変わっていたそうです。

「妻科」・・・諸説ありますが、「しな」は段丘、「つま」は隅＝裾花川の河岸段丘を表しています。

「西河原・中河原・下河原」

・・・この地域の善光寺平の用水は、大雨が降るたびに流れが変わっていたため。

「高畑」・・・このあたりは河原の土手のようですが、普通の河原のように土手は築かれていないようです。

「幅下」・・・長野県庁は大正2年に移転し、現在住所は幅下を使用しています。

長野県庁脇に用水の分岐点である大口分水場があり、水を振り分けています。八幡・山王堰は、江戸時代に造られました。山王堰は栗田城主の管理下であったようです。

宮川・計湯川・古川 「古川は栗田城の周辺を潤している。」

「山王」・・・南石堂町地籍に栗田城主が飛び地を確保し、日吉神社を招聘するとともに用水管理をしやすようにした。

3. 町の境はどのように決められているか

石堂町の町境のほとんどは用水である「宮川・計湯川・古川」で決められています。

4. 道路に関する名称変更等

道路は、移管・新設・改修等が行われると路線名及び起終点の変更が行われています。

5. 道路の状況と危険個所を知る

ア. 石堂町の道路は、「明治・大正時代に行政で新設及び改修したものです。」

県町通り・・・中御所から北国街道と並行に長野市立図書館下までの通り

町中の通り・・・県町通りと北国街道に接続する通り

一線路通り・・・長野駅前から北国街道に接続する通り

二線路通り・・・長野駅前から町境の用水路上通り北国街道に接続する通り

中央通り・・・北国街道を整備して南石堂を起点に善光寺までの通り

イ. 石堂町の道路は、「自然道路及び昭和時代以降の道路」

通りの名称は、その道を通行止めにしても迂回することが可能な通り。

県庁から宇徳永経由の通り、さらに経由して東口方面に行く通り

バスターミナル通り・バスターミナル南通り

その他、通行止めにしても迂回することが可能な通り

6. その他

ア. 小路・路地の活用

再生やまちなかの緑、町内を回遊できる街並みの形成。

イ. 用水路の活用

南石堂町内用水路の活用ほかに、現在、町の中・町境の開渠している部分を活用して親水性を高めていけば良いと思います。

結び及び提言

1. 結び

歴史や地形を紐解いていくと、このように今日の「南石堂町」は出来てきました。その背景には町で育てた「南石堂町商店街振興組合」がものすごい勢いで発展し、近年においては町行政をリードしていく状況になっています。南石堂町商店街振興組合の組合員の目覚ましい活躍で町の運営を導いているように見えます。しかしながら、今後の人口減少及びさらなる高齢化によって、組織的な整理統合が余儀なくされる日が訪れるのではないかと懸念しています。町区と商店街の両者が協力して歴史ある「我が町」をさらに発展させていかなければならないと思います。

2. 提言

・今年度は、コロナ禍にすべての国民が対応しなければなりません。特に南石堂町商店街振興組合の組合員の活躍が期待されると思います。「地域の論点 2021」の発行を待つことなく、企画の中で検討し実行できるものは即実行することを期待します。

・南石堂町を起点に中央通りが建設されて以来、改修は行われていると思いますが、路面の傷みもひどいので、用水の暗渠部も含めて地震に対応可能な改修を必要であり、併せて危険個所の点検も行うべきです。

・町の中には通りがたくさんあります。「通り名」を知らずにいる方が多いと思いますが、通り名は知っていた方が良いと思いますし、回遊するときにも役に立ちます。ぜひ、調べてみるような運動を起こしましょう。

・コロナ感染対策に注意を払い、地域とのつながりを重視する会議や寄り合いも開かれ始めています。近隣者が縁遠くならないよう積極的にコミュニケーションを取るようにしましょう。

・小路などを利用して、近隣者や仲間 5~6 人程度の少人数で、災害発生時の対応など話し合いを持つ中で地域のつながりを深めていきましょう。

・歩道に面している飲食店は、期間限定や時間限定で道路管理者の許可を得て、歩行者の通行に支障がない範囲で、飲食物の提供や物品販売をしていくことも考えていきましょう。

・今までにないコロナ禍支援策として、小路や路地を活用したイベントを定期的で開催しましょう。例えば、町内を数ブロックに分けてグループ化して、道路を短時間でも通行止めにして開催します。夏の風物詩となっている「蟻の市」を小規模にし、子供を対象として年間を通してできれば面白いでしょう。

・「蟻の市」というネーミングからヒントを得て、「蟻＝働く人たち」「蟻＝子どもたち」ということで、『蟻の街 南石堂町』として売り出したらいかがでしょうか。

・町内にはたくさんのマンションがありますが、比較的町内の人材交流が不足しているように思えます。町を活かしていくために知恵や特技を持った人に協力をお願いするためにも人材発掘を奨励します。

・町の活動を写真にして残すことも大切ですが、会議に参加した人の意見や結果報告を記事にして残すことはもっと大切だと思います。こうした小さな蓄積が今後ますます必要になる時代だと思います。

・未来を担う子供たちの心に残るイベント開催を希望します。

(参考文献 等)

本稿で記述した地籍、歴史及び地形等については、筆者が長野県立図書館や長野市立図書館の郷土史、歴史書等を参考にしたものです。

※本稿についてのデータ及び肩書等は執筆時の2020年9月現在のものです。

※表現及び言い回し等は執筆者の原稿を活かした形で掲載しています。

「地域の論点」 論点6 街なかインタビュー企画 時代に合った必要とされる街へ

権堂商店街 なべ亭
店主 渡辺 真澄

今回のインタビューは、長野市権堂商店街で居酒屋を経営されている「なべ亭」の渡辺真澄さんです。全国で開催されているバル街イベントを権堂地区活性化の一助となるよう「ごんバル」の設立メンバーとして尽力する傍ら、権堂町区の会計も担当するなど地域活動を積極的になされています。

それでは、これから「街なかのキーパーソン」である渡辺さんにお話を聞いていきます。

渡辺さんのこれまでのことを教えてください

このお店は祖父の代から始めてもともとは時計屋でした。高校を卒業してから地元を離れましたが、いずれは帰ってくるつもりでいました。就職して2、3年が経った頃、時計屋だったお店が居酒屋に業種転換していました。父の決断でしたがあまりに突然で驚いたことを覚えています。

長野冬季オリンピックの前年である1997年4月にお店を継ぐつもりでUターンしました。それからもう25年ほど経ってしまいました。オリンピック後の長野の下り坂をずっと見てきました。

「権堂商店街」について教えてください

長野市の中心市街地に位置し、善光寺さんのお膝元として栄えた町になります。賑やかさと歴史的風格を兼ね備えた商店街で、通りはアーケードが架けられ、雨の日も風の日も買物を楽しめます。季節ごとにさまざまなイベントが用意され、夏の七夕祭りが有名です。秋葉神社前にある「勢獅子」の像が権堂のシンボルとなっています。

今年の6月に権堂の核店舗である「イトーヨーカドー」が42年間の歴史に幕を閉じました。核店舗を失ったことで私たちも0からの再スタートだと思っています。私が見てきた25年間は中心商店街の有り様が変わってきた時代でした。大型店の出店を規制し、中小小売業を保護・育成することを目的としていた大店法が、消費者ニーズの変化や環境意識の高まり、さらに海外資本からの日本経済の閉鎖性に対する批判なども重なり、2000年に大規模小売店舗立地法（大店立地法）に替わることになった過程で、小店舗や商店が消えていくプロセスを見てきました。大型店が多くみられるようになり、郊外へ乱立していきました。

例えば、ホームセンターができれば金物屋はなくなる、スーパーマーケットができれば肉屋、魚屋、八百屋などの生鮮食品のお店がなくなります。今辛うじて残っているのは、飲食店を抜かせば呉服屋、薬屋、花屋といったところですね。こうしたお店も安泰なわけではなく、大型店の扱い品目の隙間に入り込んで何とか残っているという状況です。これは権堂商店

街だけの話ではなくて全国的にそうであって、構造的に小型店→中型店→大型店へと移っていく時代の中にいたのです。構造上の問題という面が大きく、一つの店舗でどうこうできるものでもないというところにこの問題の難しさが隠れています。

中心的な役割を果たしていた店舗がなくなっていく、商店街は集客力を失っていきました。中小の小売店がお手上げ状態になり、空き店舗が増え、そこに飲食店が入ってきたというのが、全国的に見た商店街の現状です。

そうした中で権堂商店街は、イトーヨーカドーの買い物客を各個店へ誘導する形で取り組んできましたが、イトーヨーカドーが郊外店との価格競争に負ける形で閉店に追い込まれました。商店街としては、今後のグランドデザインをどう描いていけるかだと思っています。跡地⁴にどういった店舗を誘致していくか、また来てくれた店舗には地元根差して頑張ってもらいたいと思う一方で、商店街の役割というのも今一度試されていると思っています。この25年で消費者としてはどんどん便利になったと思いますが、商店街の役割はなくなっていました。消費者に求められることを見出していく、自身が時代に合わせて常に対応していくことが大切だと感じています。

飲食店を経営していて地域に対して思うことはありますか？

飲食店というのは、小規模でも勝負のできる業種ですが、近くに多くあってもつぶし合いをしてしまうなどスケールメリットを活かしきれていない部分が多くありますし、そもそもスケールメリットの概念が合わない部分も飲食店にはあります。

先ほどもお話しましたが、「商店街」という形態の街が時代に合わなくなってきているのだと感じます。今後の30年を考えると商業からの転換もあるのではないかと感じています。権堂町に目を移すとマンションなどの建設があり、居住人口が増加していっています。ドーナツ化現象⁵の戻り現象です。中心市街地への回帰です。そうであるならば、飲食店にはまだまだ可能性があるのではないかと感じています。現在の居住者、そしてこれからの居住者に対して満足を得てもらえる環境を整えられるかがカギになります。撤退したイトーヨーカドーの代替店ができればさらに人が住むようになり、居住人口が増え、居住人口が増えると商売をする人がエリアに増えるといった良い循環で回ってくれればと期待しています。

「中心居住への流れ」ができれば、私もこの流れに合わせて商売をしていきたいと思っています。

⁴ こののちに、東京都新宿区に本社、長野県飯田市に本店を置く綿半ホールディングス株式会社の傘下企業である綿半ホームエイド（小売業）が入ることが報道された。

⁵ 都市化の進行下で都心（中心市街地）の居住人口が減少し、郊外の居住人口が増加する現象のことを指す。

「地域の論点 2020」の若生氏のレポートはまさにと仰っていますが、そのあたりを詳しく教えてください。

地域経済活性化の三要素が整理⁶されており、これは街が元気になる条件だと思います。

- ①地域外収入の確保（長野市外から収入を得ること）
- ②地域資金の流出防止（長野市から出ていくお金を減らすこと）
- ③地域内資金の循環促進（お金をなるべく早く長野市内で回すこと）

5～6年ほど前だったでしょうか？長野県や周辺地域が大雪に見舞われたことがありました。甲府市でも50cmほどの積雪があり、長野市中心市街地でも20cmほどの積雪で物流が止まってしまいました。こんな状態ではお昼時でもお客は来ないと思っていたのですが、ランチ客が通常より多く来ました。どうしてかと思っていると、コンビニエンスストアにお弁当をはじめ食べ物がまったくないから食べに来たと言うのです。想定以上の客入りで12時半には売るのがなくなりお店を閉めました。こんなことは今までにありませんでした。

私はその時に思いました。普段、人はこんなにもコンビニエンスストアでお弁当を買っているのだと。こういったことが毎日繰り返されている状況で、これは長野市内からお金が流出しているということであり、私は初めてその時「ゾッ」としました。とあるコンビニエンスストアは今では隣の千曲市でお弁当を作っていると聞きます。企業にとってもこの時に物流が止まったことは大きかったのでしょう。まだ県内にお金が流れていればいいですが当時は違いました。便利なのは良いのですが地域にとっては喜んでばかりもいられません。

この流れを取り戻すには、長野市のモノを外から買ってもらわないとなりません。例えば長野市の生産品と言えば、ホクト⁷のきのこ、マルコメ⁸の味噌を中心にした発酵食品が思い浮かびますが、これだけでは取り戻すという状況にはなっていません。

少し話は飛びますが、以前にスコットランドでの独立騒動⁹がありました。この時いろいろなメディアでスコットランドが独立国としてやっていけるかどうかの分析方法として、単体での収支計算をしていました。この考え方は長野市をはじめ自治体にも言えることではないでしょうか。先ほどの話に戻すと、簡単に言えばお金の流入と流出に関して、長野市が経常収支で黒字であれば良いわけです。私はこれを地域を捉えるときの「ものさし」として考えるようになりました。

現在、長野市の東側の須坂市内エリアで大型ショッピングモール建設の計画が進んでいます。消費者にとっては便利になり多くのお客が訪れると思います。便利ですがお金が流出していく可能性は大きくなります。しかし、だからと言って、これを止めればいいというものではなくて、こうしたものが出来て流れ出していくお金の量が増えたとしても、それを取

⁶ 「地域の論点 2020」論点1参照。 https://minami-ishidocho.com/pdf/column/ronten_01.pdf

⁷ 長野市に本社を置くきのこの総合メーカー。 <https://www.hokto-kinoko.co.jp/corporate/kigyou/gaiyou/>

⁸ 長野市に本社を置く味噌を中心とする食品メーカー。 <https://www.marukome.co.jp/company/outline/>

⁹ 2014年に実施されたイギリスからの独立の是非を問う住民投票に関連する騒動を指す。2020年にも独立をめぐる2度目の住民投票をスコットランド自治政府はイギリス政府に求めたが、ジョンソン首相はこれを正式に拒否した一連の事象も含むものとする。

り返すだけの産業があれば問題ないということになるので、産業の育成は今後大変重要だと思います。

お金の流出を防ぐとはどういったことでしょうか？

「入るお金を増やす」ことに尽きます。長野市外へモノを売る方法を考えることです。今はコロナで少し状況が異なっていますが、「観光客」もその一つだと思います。長野市では「観光都市」と謳いながら、観光客からお金を稼ごうという気持ちが薄いのではないのでしょうか。外から来てもらった人に満足してもらいお金を落としてもらおう。当然ではありますが、このアプローチは大事です。これをうまくやっているのが善光寺門前の東町エリアだと思います。長野市の特に善光寺門前は今や全国から「リノベーション」という切り口で観光客や視察が訪れるほど、リノベーションが定着しつつあります。2009年以降、リノベーションで生まれた店舗や事務所などは100を超えるまでと言われています。それまで空き家があっても持ち主と借り主をつなぐことができないまま放置されたり、駐車場になったりと、そんな状況だったところに不動産屋「MYROOM」が空き家専門の不動産屋として、空き家の持ち主と借り主のつなぎ手として登場して現在に至っています。

私たちとしても新しく入ってきた人たちの視点を活かしていかなければなりません。中にいる人たちだけでは、今の世の中変革は出来ません。これまでの経験で本当にそう感じています。例えばですが、まずは「何で長野に来たのか？」を聞いてみて、長野の良い所を語ってもらうことから始めていければと思います。そこに「入るお金を増やす」ヒントがあるはずです。

権堂の中には自治会としての権堂町という組織と、権堂商店街協同組合というアーケード内の商店で構成されている組織がありますが、私は商店街の役員を長いことやった後、町の会計をやらせていただくことになり、人との繋がりも増えて、いろいろな人がいると分かり発見もありました。やはり「視点」を変えてみるということは大切だと改めて思いました。

居住人口が増え、マンションに住む新たな住民と権堂町の人と一緒にになれる何かを仕掛けていきたいと思っています。現在はコロナ禍で思うように活動は出来ていない部分もありますが、コロナ収束の際にすぐに行動できるように準備はしっかり今のうちからしていくつもりです。

総括としまして、最後に一言お願いします。

「居て楽しい」ことが一番だと思います。商店街へ買い物だけに来る時代は終わりました。周遊（滞留）して楽しくなるように仕掛けていかなければなりません。これまで権堂商店街には留まる楽しさを求めて来る来街者が極端に少なかったはずですが、そういった場所がなかったのです。しかし、イトーヨーカドーに入っていた老舗喫茶「ブラジル」が権堂アーケード内に移転しました。私も行きましたが、昔ながらの喫茶店といった雰囲気の中でゆっくりくつろぐことが出来ます。こうした例を積み重ねていくことだと思います。

今まで通りにやっているとジリ貧になっていくことは明らかで、時代に合った必要とされる街になるよう私自身も努力したいです。今思うと「ごんバル」という組織を作れたことで、何かを行う際の土台が出来ていると思います。繋いでいく仕組みを作れているので、あとは、①何をやりたいかを決め、②誰を集めたいかを決め、③実になることを行うだけだと思います。①と②がしっかりしていることで、同じことをやるにしても③が違ってくると思います。

権堂は長い歴史がありますが、ずっと同じ姿でいたことはありません。先人たちもその時代時代において良い意味で変わり続けてきたのです。私たちもそうあるべきで、『時代に合った必要とされる街』へ変えることで生き残っていきたいと思います。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が 2020 年 11 月 26 日にインタビューした内容をまとめたものです。

コラム 道端に咲く独り言
「南石 “誰でも” ミーティング」

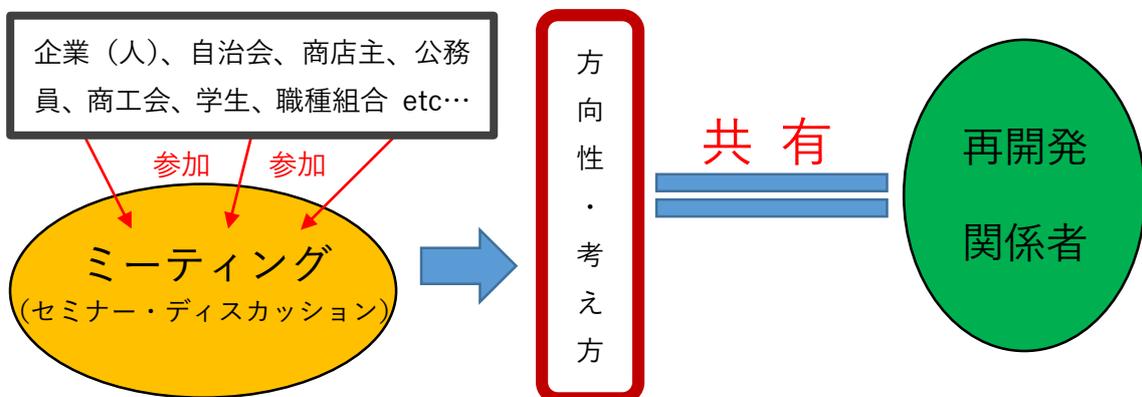
南石堂町商店街だけでなく、地方都市の中心市街地は、「建物の老朽化」や「後継者問題」を抱え、経済原理としての商業活動の継続が危ぶまれている状況にあります。そうした中で、各地では複合商業施設の再開発や再開発でのマンション建設など、街に新しい流れを創ろうという動きが見受けられます。

長野駅周辺でも、噂話レベルも含めるとこういった話がないわけではありません。長野市でも、新田町交差点付近から長野駅周辺までのエリアで「長野中央西地区市街地総合再生基本計画¹⁰」を作成し、2021年の前半には計画の公表をするとみられています。

もちろんこうした再開発計画には、地権者、自治体、ディベロッパーなどが関わり進めていくわけですが、長野駅前の商店で構成される商店街組織が何の考えも持たず、建設的な意見を言わないことは、将来を見据えた中心市街地の商業活動に対して良いことではありません。そうは言っても私たちは、コロナ禍の中、商業活動の変化の流れに相変わらず対応しきれずにいます。こうした状況を少しでも変えていくために、中心市街地を軸に多種多様な人材が集い、ミーティングやセミナーを重ねていくことで、今後について確固たる意思に基づいた方向性を示す必要があるのではないのでしょうか。

そこで、南石堂町商店街では長野駅前の将来像を示すための話し合いの場として、「南石 “誰でも” ミーティング」の立ち上げを企画したいと思います。一般的にいう研究会であり、参加者について制限を設けないことにします。現在想定している内容は、年6回ほどの開催で、各回テーマを決めてセミナーを実施、その後テーマに関してミーティングを行うというものです。そして、年度末には一年間の成果として、その段階での将来像を報告書という形で発表したいと考えています。

こうした活動で知見とネットワークを広げていくことで、再開発関係者と建設的に対峙し、今後のまちづくりについて積極的な意見交換及びコミュニケーションが取っていければ面白いと思っています。



※図は編纂事務局にて作成

¹⁰ <https://www.city.nagano.nagano.jp/uploaded/attachment/345530.pdf> を参照。

「地域の論点」 論点 7

100年先も暮らしたい長野県にしよう ～長野県 NPO センターの紹介～

特定非営利活動法人長野県 NPO センター

事務局次長 小林 達矢

特定非営利法人長野県 NPO センターとは

1999年に設立され、これまでに NPO 法人の設立サポートや長野市市民協働サポートセンター及び佐久市市民活動サポートセンター事業を受託し、NPO や企業、行政との協働を促進しています。加えて、中学・高校での SDGs 出前授業も実施しています。また、職場体験・探究的学習のヒアリング先のコーディネーターも行っています。

現在は、人と地域の参加及び協働を創り出すことで、「みんなで100年先も暮らしたい長野県にしよう！」というビジョン実現に向けて活動しています。

SDGs 出前講座で伝えていること

当センターでは、昨年度から中学校3校、高校9校で出前講座を行っています。出前講座は50分授業、90分授業、3時間授業と3つのパターンがあります。50分授業では、クイズを交えてSDGsの基本を楽しく学びます。90分授業では、地元で活動しているNPOや企業を紹介しながら、理想のまちについて考えます。3時間授業では、農業従事者や商店主になりきり、持続可能なまちづくりを疑似体験する「SDGs de 地方創生」カードゲームワークショップを行います。

出前講座を通じて伝えていることは、「SDGsを自分ごとにする」ということです。インド独立運動の父と呼ばれるマハトマ・ガンディーは、「Be the change you want to see in the world」と述べ、地球に住む一人ひとりが自分ごととして社会問題を捉え、変化の担い手になることが重要だと指摘しています。

SDGsは地球規模の問題で、自分の生活にとって関係のない話だと思われがちです。しかし、食品ロスの問題を1つとってみても、便利にいつでも安価な物を入手したいという消費者側の考え方が変わらない限り、大量生産の流れは変わりません。日々の生活を見つめ直すことが大切です。

ではどうすれば、自分ごととして考え直すことが出来るのでしょうか。1つは「未来志向」です。出前講座でワークをする際に最初に考えてもらっていることは、理想の世界及びまちの姿です。「2030年あなたはどんなまちに住みたいですか？」と問います。今までに考えたこともない題目なので、はじめのうちは戸惑っている生徒もたくさんいますが、「率直に自ら考えていることを書いても良いよ」と言うと、なにかしら思いつくようです。自分の立場で書くので、自ずと「自分ごと」で考えていくことになります。

もう1つは「身近で活動しているNPOを知ること」です。例えば、フードロスをなくす活動をしているNPOは、企業・行政とパートナーシップを組んで、必要とする家庭に食料を届

けています。実はフードロスをなくすだけでなく、貧困や飢餓の問題解決にもつながっているのです。このように同時に複数の課題を解決することがSDGsの本質の1つであり、身近にも行われています。

授業内では考えるきっかけを提供するにとどまりますが、当センターでは理想のまちを実現するために、自ら地域の活動に参加し、アクションできる活動も実施しています。

若者が地域を元気にする校外活動「ユースリーチ」

ユースリーチは、「長野を少しずつもっと良くする」を合言葉として、長野に住む高校生や大学生が学校の枠を超えてまちの課題を自ら発見し、その後アクションプランを作成、実践しています。2016年に当センターが若者の地域参画を促進するためにスタートした事業で、これまでに高校生、大学生など約150人が参加してきました。高校生の居場所づくりやゴミ拾い活動など積極的に地域へ参画する活動が生まれています。

2019年からは、SDGs実現に向けて、身近な活動が世界につながることを意識しています。2030年に長野を住みたいまちにするためにはどんな活動をしていけばいいのかという未来志向、長野での課題が世界問題にどうつながっているのかという視点をもとにアクションプランの立案を実施しています。

ユースリーチのスタートは、4月に行われる「新学期応援フェス」です。新しいことを始めたいと思っている高校生・大学生を集め、ユースリーチの活動紹介はもちろんのこと、地域で活躍をする高校生・大学生の団体紹介、長野の若者と一緒に活動をしたいNPOや企業の紹介をし、SDGsの説明もします。新しい出会い、新しい仲間、新しい挑戦、一歩を踏み出す機会です。2019年には参加者へのSDGs認知度アンケートを行い、約72%の参加者がSDGsを知っていました。長野県内の中小企業での認知度が13%(平成30年関東経済産業局調査)ですので、参加した高校生・大学生の意識が非常に高いことが分かります。SDGsにある17の目標¹¹の中では、「貧困をなくそう」「人や国の不平等をなくそう」に関心の高さがありません。

5～7月には、地域に触れるフィールドワークを行います。SDGs17のゴールの中で関心のある分野を選択。子育て・教育、福祉、まちづくり・観光、環境保全、国際理解などの実践者にヒアリングを行い、アクションプラン作成のヒントを見つけます。ながの協働ねっと¹²主催「地域まるごとキャンパス¹³」にもユースリーチメンバーは参加し、現場で経験を積んでいきます。

¹¹ SDGs(持続可能な開発目標)には、17の目標と169ターゲットがある。17の目標は以下のとおり。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロ」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」「産業と技術革新の基盤をつくろう」「人や国の不平等をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任 つかう責任」「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」「平和と公正をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」

¹² 長野市のNPO法人を中心にしたネットワークを指す。

¹³ 学生を対象に長野市で行われている多くの市民活動との出会いの場、活動の場を提供する事業を指す。

夏休み前に、SDGs 実現のためのアプローチ検討を行うアクションプラン企画会議を行います。午前中は、SDGs de 地域創生カードゲームを体験し、パートナーシップの重要性を学びます。午後は、ビジョンづくりに精通している外部講師を招き、自らやりたいこととビジョンを結び付けます。

夏休みからはいよいよ実践になります。昨年度は 7 つのアクションプランが誕生しました。特に印象深かったのは、信州高大連携復興支援チームが実施した災害情報共有会議です。令和元年東日本台風の影響で長野も甚大な被害を受けました。「小さいことでも何かできることはないか」と思いつつ、一步を踏み出せない高校生が多くいました。その中、大人が集まる災害時情報共有会議に参加しているユースリーチメンバーが、災害復興支援の後押しをしたいと考え、高校生向けに 2 回共有会議を実施しました。泥出し作業に加え、学習支援にかかわる高校生を増やすきっかけをつくりました。

また、「海洋プラスチック問題は、海なし県である長野県からポイ捨てをなくすことが重要」と考えて、「Gomitomo」という学生団体を立ち上げたメンバーもいます。ゴミ拾いにゲーム要素を取り入れて、同世代の高校生や子育て世代にも参加しやすいゴミ拾いイベント「清走中」を企画し、新型コロナの影響で 2 回延期しましたが、3 度目の正直で 2020 年 7 月に無事実施できました。小学生からシニア世代まで幅広く 95 人が参加する大盛況のイベントになりました。参加者からは「外で子どもが遊ぶ機会が減っていたのでありがたい」という声をいただき、美化活動以外での効果もあったようです。

活動をしていく中で、行政・企業との連携も出来つつあります。今後も高大生の活動で終わりにするのではなく、地域のさまざまな人を巻き込んで同時複数の課題を解決していく彼らのバックアップに力を入れていきます。

長野県 NPO センターのこれから（中長期目標）

当センターでは、下記のような事業体制及び中長期目標を掲げています。

ビジョン：みんなで 100 年先も暮らしたい長野県にしよう！

ミッション：信頼される社会の変革者として、人と地域の参加・協働を創り出す

◆ビジョン及びミッションを実現するために長野県 NPO センターが担う役割と機能

①持続可能な地域づくりのためのパートナーシップ促進

～行政・教育機関・企業・地域などさまざまな主体が連携し、分野横断型の課題解決につなげる～

②地域社会の参画促進

～さまざまな取り組みを後方支援し、寄付増加、ボランティア活動活性化などムーブメントを起こす～

③地域経営組織のコンサルティング

～組織づくり、事業戦略、財務、人材育成のトータルサポートを行う～

④地域に特化したシンクタンク機能

～地域の状況を見える化を行い、自治体へ政策提言～

100年先というと、不確定要素が多く、とても創造がつかない未知な世界だと思います。しかし、このままいけば、世界全体の資源が100年先も残るのかわかりませんし、日本においては、人口急減社会における方策を見出さなければなりません。

SDGsは、2030年までの世界共通の目標であり、100年先の一つのベンチマークになると思います。

最近では2050年までにゼロカーボン¹⁴を実現することも一つの目標になりつつあります。これらの目標を実現するには、一ヶ国では解決できませんし、一人ひとりが分野・垣根を超えて協力し合うことがこれまで以上に求められていると思います。

そこで、当センターでは、長野県においてこれまで繋がりがあまりなかった市民・NPO、企業、行政、教育機関を繋ぎ、新しい価値を創出する使命があります。

これまで当センターの担ってきたパートナーシップや地域社会の参画促進をより、強化していくとともに、地域の状況の見える化や、地域経営組織づくりなどにも取り組む予定です。

私としては、ユースリーチに参加しているZ世代¹⁵と呼ばれる若い世代の型にハマらない発想や、行動力に毎回驚かされており、将来に明るい兆しを感じることもあります。

Z世代の活動を応援するだけでなく、一緒に作り上げ、参加していくことも必要ではないでしょうか。

ぜひ一緒に関わっていただける方大募集しております。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月22日にインタビューした内容をまとめたものです。

¹⁴ 企業や家庭から出る二酸化炭素（CO₂）などの温暖化ガスを減らし、森林による吸収分などと相殺して実質的な排出量をゼロにすること。「カーボンニュートラル」とも呼ばれる。政府は2020年10月、2050年までにカーボンゼロを達成する目標を掲げた。海外では欧州が2050年、中国が2060年の「実質ゼロ」を打ち出している。長野県でも令和元年11月県議会定例会における「気候非常事態に関する決議」を受けて、阿部知事が「気候非常事態」を宣言し、この中で「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」とすることを決意している。

¹⁵ 1996年～2012年頃に生まれた世代を指す。

「地域の論点」 論点8 若者インタビュー企画
高校生のやりたい想いを実現する
～ “放課後の居場所、というコミュニティの可能性～

学生団体「Fourth Place」
代表 中澤 貫太

今回のインタビューは、高校生や大学生などの若い世代が、既存の施設ではなく、新たな居場所を生み出すとともに、学校や学年の枠を超えて積極的に地域に飛び込んでたくさん
の取り組みを実施している学生団体「Fourth Place」代表の中澤貫太さん（高校2年生）に
お話を伺います。中澤さんたちメンバーは、イベントの企画運営や地域のボランティアコー
ディネーターなど、高校生・大学生が他校の学生や地域と交流できる環境づくりに取り組んで
います。

Fourth Place（フォースプレイス）について教えてください。

フォースプレイスは、2019年6月に高校生・大学生18名のメンバーで立ち上げた学生
団体です。まちづくりなどの地域活動に興味があり、学校や学年の枠に捉われない活動がし
たいと思い設立しました。私たちの世代では「まちづくり」と聞くと難しいものと感じる人
が多くいました。しかし、私は「まちづくり」の視点で高校生としてできることは必ずある
はずだと思い、高校生にアンケートを取ってみました。すると、回答の多くに「居場所」が
欲しいとありました。私たち若い世代は街なかに若い世代で集まること出来る「居場所」
を求めているのです。

これで、私たちがまず始める活動内容が決まりました。自宅や学校、カフェでもない、高
校生・大学生など若い世代のための “第4の場所、” をつくることにしました。この私たち
の “第4の場所、” への想いを込めて団体名（プロジェクト名）を「Fourth Place」としまし
た。東京に「b-lab¹⁶（ビーラボ）」という、いつでもなんでも挑戦できる中高生の秘密基地
のような場所があります。放課後の居場所として、こんな場所をつくれればいいなと思っ
ています。

このような活動を行うようになったきっかけを教えてください。

自分自身がこうした活動を行うようになったきっかけは、高校1年生の時に長野青年会
議所の公開例会に参加したことでした。地域に根差しながら将来を見据えた想いやお話を
聞いて単純にかっこいいと思いました。そして、同じ高校生でありながら長野青年会議所理
事長との会談がチラシに取り上げられていた方を見て、自分もやってみたくと学外活動に

¹⁶ 「b-lab（ビーラボ）」とは、2015年4月にオープンした教育センター（複合施設）の中にあり、認定
NPO法人カタリバが運営する文京区内初の中高生向け施設を指す。詳細はURLより。<http://b-lab.tokyo/about>

関心を持つようになりました。そうした時に、フォースプレイスを設立するきっかけにもなった「ユースリーチ」を知りました。ユースリーチは、「自己実現×仲間づくり×社会課題解決」をコンセプトに長野市の高校生・大学生が学校の枠を超えてアクションプランを作成し、自ら実践していく取り組みです。これまでに地域活性化プロジェクト、高校生の居場所づくり、ゴミ拾いイベント、気候変動アクションなど、学生たちがイキイキと地域のために行動しています。私はこの「仲間とアイデアを出し合いながら新しい企画を創出する」というところに大きな魅力を感じて参加しました。



↑ ユースリーチの目指すもの（ユースリーチのホームページより）

実際の活動について詳しく聞かせてください。

①放課後の居場所づくり

若い世代が学校の外に飛び出して地域活動やまちづくりを実施するために、日常的な交流の場を長野市新田町の空きテナントに設けました。空き店舗になっているところを中心に探しましたが、所有者との交渉に手間取ったり、立地の問題も出てきたりとなかなか苦労しました。今後は、活動拠点としてはもちろんのこと、高校生・大学生であれば誰でも気軽に立ち寄れる放課後の居場所として機能させていきたいと思っています。

②高校生未来サミット信州

先ほどお話したとおり、放課後の居場所を確保するのに少し時間がかかってしまいました。しかし、活動拠点が無いからと言って活動自体が出来ていなければ本末転倒です。そこで、居場所づくりと並行して場所がなくてもできるイベントを企画していきました。その最初のイベントが『高校生未来サミット信州』です。高校生・大学生を対象に地域で活躍するゲストから活動事例を聞いたのち、参加者同士で地域課題について話し合い、解決へのアイデアや自分たちが行うべきアクションについて考えてもらいました。多くのイベントは主催者や参加対象者が社会人なので、高校生や大学生には敷居が高いと感じてしまいますが、テーマそのものに関心がないわけではないんです。高校生が企画している、友達が関わっているなど、身近に感じる事ができれば来てもらえるということをこのイベントで実感しました。

③高大生災害情報共有会議

「高校生未来サミット信州」など、高校生・大学生を集めたイベントを続けていましたが、2019年10月に台風19号災害による水害が長野市をはじめ周辺地域で発生し、すべての活動はストップしました。しかし、私は自分が今できることをという思いから、いち早く災害ボランティアへ向かいました。目の前に広がる想像を絶する被害を見て声も出ませんでした。その後は、各支援団体やボランティアが現地の支援状況や課題について協議する情報共有会議に参加しました。週1回のペースで開催される会議には毎回50名以上の方々が参加していましたが、高校生は私だけでした。

会議で高校生・大学生も協力してもらえないかとお話をいただきましたが、私たちとしても関わりたいけどもどのように関わって良いか、どんな支援が求められていて、自分たちに何ができるのかも想像できませんでした。そこで、このような情報共有会議を高校生・大学生向けにやってみることから始めようと思いました。

2019年11月中旬にユースリーチの仲間たちとともに「高大生災害共有会議」を開催し、被災地支援に携わる自治体や青年会議所の方々とディスカッションを続けながら、自分たちには何ができるのかを考えました。こうした機会をきっかけとして、被災地で暮らす子どもたちの学習支援ボランティアやクリスマスに被災地へ手作りクッキーを届ける取り組み、汚れてしまった写真の洗浄など、若い世代の発想を現場に持っていくことで数々の活動が生まれました。

④スタテレ¹⁷

2019年10月に台風水害が発生し、2020年には新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校が一斉休校となり、全国各地

¹⁷ オンライン自習室「スタテレ」ホームページ参照。
https://peraichi.com/landing_pages/view/sutatere0414/

で学校再開の目処が立たない状況が長く続きました。同時に外出の自粛、大人数で集まる機会の自粛なども始まり、多くの高校生は家庭で過ごす時間が増えていきました。そうした状況下でも私たち高校生は自分たちで学習を進めていかなければなりません。いつもは塾や図書館で自習しているという方も多いと思いますが、コロナ禍では、それらの場所に行くのにもリスクが伴います。しかし、長時間誰とも会話せず、一人で勉強し続けるのはそう簡単なことではありませんし、気が滅入ってしまいます。そこで、フォースプレイスでは、「勉強」を通じて全国の高校生と会話し、励まし合い、繋がることのできる居場所を提供したいと考えました。そんな思いから始まった「高校生による高校生のためのオンライン自習室」プロジェクトです。

一日のスケジュールは、参加するみんな考えてみんな組んでいきます。まずは「おはよう！」の挨拶から一日をスタートさせます。充実した一日を過ごすため、一日の目標を決め、共有します。参加者みんなで決めた時間割をもとに、学校の自習時間ほどガチガチではないですが、みんな集中して勉強します。休憩時間には勉強法を教え合ったり、ラジオ体操をしたりとさまざまです。途中参加や途中退室も認めています。カメラオフでの参加も歓迎で自由なスタイルで一日過ごします。そして、一日の最後には立てた目標を振り返ります。雑談の中で今日はどんな一日だったのか、目標は達成できたのか、どこが出来てどこが出来なかったのか共有し、また明日を充実させる方策を考えます。

⑤活動費募金

活動費の捻出のためにたくさんの人たちに直接お会いして募金のお願いをしてきました。そうした中で、長野駅前の南石堂町商店街振興組合さんが私たちフォースプレイスの活動にご理解と関心をいただき、商店街の店舗などに募金箱を3つ置いてくださいました。本当にお店の皆さん、来街者の皆さんのお気持ちが嬉しかったです。大切に使用してもらいます。

今後やりたいことや目標について教えてください。

私たち設立メンバーが抜けた時、残ったメンバーにはやりたいことをやってもらいたいと思います。取り組みの継続は大事ですが、その時々によって環境や課題なども変わってきますので、その時に「やりたい！やるべきだ！」と思ったことに突き進んで欲しいです。

私も2021年8月になれば本格的に受験勉強を始めるために7月末日でこの活動からは引退することを決めています。残された時間はわずかですが、フォースプレイスの継続性を担保できるように、これまでもいろんな高大学生を巻き込んできましたし、これからもどんどん巻き込んでいきたいと思っています。こうした活動をしているとよく「意識高い系」と呼ばれたりもしますが、「意識高い系」でない人たちにも積極的に声を掛けていきたいと思っています。

また、フォースプレイスではないですが、長野県内の高校生有志で「晴れプロ実行委員会」

を結成しました。これは、コロナ禍で大会が中止となった文化系部活に発表の場を提供し、晴れ舞台でこれまでの努力をパフォーマンスして欲しいというものです。始まりは高校野球など運動部では代替大会が開催されましたが、文化系の部活動は発表の場がなくなっていると知り、行動に移したものです。地元プロスポーツチームに、試合開始前に高校生がパフォーマンスする場を作れないかと交渉しました。2021年3～6月には、信州ブレイブウォリアーズとサッカーJ3 長野パルセイロのホーム戦で出演することが決まりました。今後県内各校の部活動に声を掛けていくつもりです。

<今後の「晴れプロ」の日程>

★長野西高等学校バトン班×信州ブレイブウォリアーズ

日時 3月24日(水)18:00～ 場所 ホワイトリング

★長野商業高等学校チアリーディング部×信州ブレイブウォリアーズ

日時 3月24日(水)20:00～ 場所 ホワイトリング

★長野高校ダンス班×信州ブレイブウォリアーズ

日時 3月31日(水)18:00～ 場所 ホワイトリング

★その他

日時 4月から6月の試合開始前時間 場所 長野Uスタジアム

対象 高校生(部活動、社会体育、習い事)

吹奏楽、軽音楽、ダンス、初動、演劇、合唱、管弦楽、バトンなど随時募集中です。

↓晴れプロ チラシ

晴れプロ HARE-PRO
晴れの舞台をプロデュース

本気のパフォーマンス届けたい!!

人に感動を届ける喜びや成果を発表する楽しさを
再び感じられる「場所」を作りたい。

- 長野県長野高等学校 合唱班
- 長野県長野高等学校 バトン班
- 長野県長野商業高等学校 チアリーディング部
- 長野県長野高等学校 ダンス班

晴れプロ第2弾 AC長野パルセイロの試合前会場でのパフォーマンス参加クラブ募集中!

募集団体 高校生グループ(部活動、社会体育、習い事)
吹奏楽、軽音楽、ダンス、演劇、合唱、チアリーディング、管弦楽、バトン、初動、演劇、管弦楽、吹奏楽、軽音楽、ダンス、演劇、合唱、チアリーディング、管弦楽、バトン

会場: 長野Uスタジアム 1F 長野県民体育館
期間: 2021年4月～6月 (詳細はホームページをご覧ください)

主催: 晴れプロ実行委員会 協力: 第十八回長野県打撃つり実行委員会 協賛: 長野県高等学校体育連盟、長野県高等学校吹奏楽連盟、長野県高等学校チアリーディング連盟、長野県高等学校ダンス連盟、長野県高等学校演劇連盟、長野県高等学校管弦楽連盟、長野県高等学校吹奏楽連盟、長野県高等学校チアリーディング連盟、長野県高等学校ダンス連盟、長野県高等学校演劇連盟、長野県高等学校管弦楽連盟

お問い合わせ: 晴れプロ実行委員会 ☎ hare.pj.55@gmail.com

本気のパフォーマンス届けたい!!

長野県長野商業高等学校 美術班 × **信州ブレイブウォリアーズ**
ART
日時: 2021年 2/11(木)～14(日)
場所: ホワイトリング (長野県民体育館内)

長野県長野高等学校 合唱班 × **スプリングフェスタ**
Chorus
日時: 2021年 3/13(土) 18:00～19:00
場所: ホワイトリング (長野県民体育館内)

長野県長野高等学校 バトン班 × **信州ブレイブウォリアーズ**
Baton
日時: 2021年 3/24(水) 18:00～19:00
場所: ホワイトリング (長野県民体育館内)

長野県長野商業高等学校 チアリーディング部 × **信州ブレイブウォリアーズ**
Cheerleading
日時: 2021年 3/24(水) 19:00～20:00
場所: ホワイトリング (長野県民体育館内)

長野県長野高等学校 ダンス班 × **信州ブレイブウォリアーズ**
Dance
日時: 2021年 3/31(水) 18:00～19:00
場所: ホワイトリング (長野県民体育館内)

お問い合わせ: 晴れプロ実行委員会 ☎ hare.pj.55@gmail.com

最後に同世代やこれから高校生になる皆さんへメッセージをお願いします。

自分が楽しいなと思うことに取り組んだり、ワクワクする方向へ素直に行くと見えてくるものが出てきます。しかし、これはなかなか難しいことで、ただ一步を踏み出してみれば良いといった易しいものではないことも、多くの活動が続けてきて、同世代の話を聞いてきて感じていることです。このような一人では踏み出せないけど、仲間がいれば踏み出せるといった人たちをそっとサポートするのが、フォースプレイスの「放課後の居場所」であると思っています。

「放課後の居場所」は立ち上げましたが、まだ目指していた形として運用できているかと言うとそうではありません。場所だけあってもやはり“来るきっかけ、がなければ来ません。今、私のイメージではきっかけの場をお菓子などが置いてある『駄菓子屋』のようなコミュニティスペースにしても良いと思っています。昔の子供たちは学校が終わると駄菓子屋に集まって、そこが自然と交流の場となっていたと聞きます。私たちがやっている地域へ出での活動やまちづくりは、「やりたい想い」という意味では、高校生の本分である勉強や部活動と何ら変わりはありません。勉強や部活以外の第3の軸として、夢中になれること、その夢中を仲間と共有できることをぜひ体験して欲しいです。どうですか？私たちと一緒に「やりたい」想いのきっかけを見つけて、一緒にその「やりたい」を実現してみませんか？

■高校生の居場所 Fourth Place

学校・学年を超えて高校生の自分だから出来ることを見つけよう！

メール：fourthplace.official@gmail.com

ご連絡お待ちしております。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月13日にインタビューした内容をまとめたものです。

「地域の論点」 論点9 若者インタビュー企画

長野をクイズの街へ ～私たち高校生の挑戦～

長野高校非公式クイズ研究会 NEQ

会長 宮坂 玲志 (2年)

丸山 蒼 (2年)

今回のインタビューは、長野高校で現在は非公式ではありますが、クイズ研究会を立ち上げて、高校内だけにとどまらず他校生とも連携をしながら長野市並びに北信地域の高校生でクイズコミュニティを作ろうと日々努力をしている会長の宮坂さんと丸山さんにお話を聞いてみたいと思います。勉強とは別の軸を作り活動しているお話は、若い方々に刺激になると思います。それではよろしくお願ひします。

クイズ研究会を立ち上げようと思ったきっかけは何ですか？

私たちが長野高校へ入学して、入る部活を探していた時に入りたいと思う部活がなかったんです。それなら自分で作ってしまおうと思いました。もともとクイズが好きで「高校生クイズ」にも出てみたいと思っていたので、こうしたことが立ち上げるきっかけでした。

1年生の時でしたので、2019年4月の中旬です。まず、私（宮坂）含めて同学年3人で立ち上げました。校則では3人以上で同好会を作ることができるとあったからです。学校側に設立願を提出しましたが、まだ活動実績がなかったため、1年間の活動を見て判断すると学校側から言われました。よって、現在は非公式の言わば“経過観察中”で、メンバーを増やし、活動実績を作っているところです。

どんな活動をしているか教えてください。

まずは勧誘ですが、3人からスタートして、一時は10数人まで増えましたが、2020年3月で6人、2020年12月で13人（2年8人、1年5人）といった状況です。

実際の活動ですが、平日は毎日活動しています。

- ・メンバーで集まり今後の方針や運営方法などを話し合う
- ・クイズを出し合って腕を磨くとともにクイズの創作も行う
- ・校内新聞にも取り上げられるなど広報活動も積極的に展開
- ・岐阜県や新潟県で行われたクイズ大会に出場

こうした活動の中で、私たちの活動への意識を変えた出来事がありました。県外のクイズ大会に出場した際、同じ県内の松本深志高校クイズ研究会や県外の人たちとも交流が生まれました。多くのことを話し、そして聞くことはとても楽しい体験で刺激的なものでした。こうした機会を県内でも増やしていきたいと思うようになりました。

新たな活動へのチャレンジについて教えてください。

はい、先ほどお話しましたクイズ大会での体験がきっかけで高校間の垣根を越えて団体を作り、さらにイベントも主催したいと思い、2020年10月に方策などの話し合いを始めました。高校生でクイズや雑学が強い人はいますが、研究会や同好会といった形では北信地域の高校ではないということが分かりました。話し合いを重ねて行動を始めようと思いましたが、コロナ禍という状況もあって、なかなか他校に声をかけられていないのが現状です。

そんな折、長野高校で実施されている総合学習の一環で研究会のメンバーが南石堂町商店街さんへフィールドワークに行き、商店街さんから「何か駅前をフィールドとしてやりたいことがあればぜひ一緒にやりましょう！」とお言葉をいただきました。学校に戻ってからの話し合いで、『相談してみよう！』ということになりました。なぜかと言うと私たちは垣根を越えた活動をするに当たりまず、①長野駅前に気軽に集まれる場所を作りたい②主催イベントを開催したい、この2点が活動目標としていたからです。

今日はインタビューもさせていただいていますが、先ほどご相談したことも少しずつ前に進めたいと思っています。

それでは商店街とのコラボ事業はどのようなことをお考えですか？

気軽に集まれる場所ということについては、どこか可能性がある場所や建物、部屋があれば教えて欲しいですし、私たちは何をすればいいか分かれば持ち帰って研究会できちんと対応するようにしたいと思っています。宮下さんからの商店街とのコラボ事業として公民館をお貸しいただける案は大変有難いご提案だと思っています。

イベントの開催については、もちろん最終的には独自での主催という形を考えていますが、まだ走り出しですので最初からうまくいかないということも理解しています。その中で宮下さんからこちらも商店街とのコラボ事業として、ゴールデンウィークでのイベントや蟻の市、ハロウィンストリートなどの長野駅前で実施される催しについて、南石堂町商店街エリアでスペースをもらって自分たちで運営するという案は現実的で、頑張れば実施できそうなので早く他のメンバーにも話してみたいと思っています。

新しい活動のイメージが見えてきた中で今後についてはどうお考えですか？

研究会としての土台をしっかりと作ることが設立メンバーであり年長の学年である私たちの役目だと思っています。土台というのは、どのようにすれば楽しくクイズができる環境が普通となっていくのかを整えていくことだと思います。それが長野駅前で気軽に集まってクイズに関われる環境だとも思っています。まだまだ知名度は低いですが、北信地域でクイズと言えば長野高校と言われるくらいにはなりたいと思っています。

また、自分たち以外でもクイズをやりたい人はいるはずだと思っています。そうした環境がないので、例えばクイズ本などで一人楽しんだり、昼休みの遊びという枠からはみ出せないでいるのだと思います。だから、私たちがそうしたクイズ好きの受け皿になりたいです。

受け皿になるためには、やはり活動を多くの人に知ってもらわなければなりません。広報及び周知を行い、楽しさを分かってもらえる企画を地道にやっていきたいです。現在活動をしていて0から1にすることは本当に大変なことだと身に染みっていますが、負けずに続けていきます。

熱い想いをありがとうございます。最後に一言お願いできますか？

私たちは恥ずかしいですが『クイズ愛』が原動力です。それはクイズが私たちに「楽しさ」を与えてくれたので、この感覚を他の人にも味わって欲しいのです。クイズをやっている人は特殊だというイメージもあるように感じますが、こうした価値観も壊したと思っています。クイズは社会生活の延長線上にあるもので、学びであり、豊かな人生に必要な物だと捉えています。

研究会や同好会を作りたいけど作れていない人は他校にはいます。みんなでクイズと思っても環境が近くにありません。こうした課題を私たちが関わることで一人ではなく、同じ想いのある仲間がいることに気付いて欲しいです。重ね重ねになりますが、それが私たちの役割であると強く認識しています。

商店街さんやたくさんの大人たちに支えながら助けられながらになると思いますが、自分たちでしっかりと考えて、自分たちでしっかりと動いて汗をかいて、小さくてもいいので実になっていけば嬉しいと思います。よろしく願いいたします。

長野高・非公式研究会を結成

県立長野高等学校の生徒有志による「非公式クイズ研究会」がクイズによる街おこしを目的として活動している。21日には、近年クイズの人気が高まっている中高生らに参加してもらおうと、秋の祭りを冠した「クイズ1しなまきわい2」を開催した。1日長野駅前商店街に単行活動拠点を確保し、街なかのクイズイベント開催を目指す。

【編集部1】
同好会の高坂志志さんが所属する。さん(17)、吉澤優也さん(17)が主催。高2年、丸山真さん(19)が副。前年(17)年、夏祭りがあつた。興味があつた。クイズがあつた。商店街の活動。高坂志志さん(17)が主催。高2年、丸山真さん(19)が副。前年(17)年、夏祭りがあつた。興味があつた。クイズがあつた。商店街の活動。

商店街と連携 5月にイベント



活動拠点を確保してクイズの練習に励む高坂志志さん(右から2人目)ら。長野市南石堂町の同町公民館で

【編集部1】
高坂志志さん(17)が主催。高2年、丸山真さん(19)が副。前年(17)年、夏祭りがあつた。興味があつた。クイズがあつた。商店街の活動。

クイズで街おこしを

人が民船に乗って早湯クイズの練習に打ち込み、今後の活動に話合った。男、4日。公民館を練習会場として力をあわせる。5月、5日に虫歯の開催予定の「NANA ONO」を主催する。クイズの練習に励む高坂志志さん(右から2人目)ら。長野市南石堂町の同町公民館で

【編集部1】
高坂志志さん(17)が主催。高2年、丸山真さん(19)が副。前年(17)年、夏祭りがあつた。興味があつた。クイズがあつた。商店街の活動。

【編集部1】
高坂志志さん(17)が主催。高2年、丸山真さん(19)が副。前年(17)年、夏祭りがあつた。興味があつた。クイズがあつた。商店街の活動。

↑ 2021年3月23日毎日新聞 25面



↑ 2021年3月22日信濃毎日新聞北信欄



↑ 2021年3月23日長野市民新聞3面

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月22日にインタビューした内容をまとめたものです。

コラム 道端に咲く独り言

「地域活動の実験フィールドとして」

「長野駅前には来ていますが、まわりのお店などは知らないです。」

これは、通学に長野駅を利用している大学生・高校生に、「長野駅前の商店街やお店のことは知っていますか？」という問いかけに対する回答です。平日は毎日通っているにもかかわらず、街自体に関心が無いことを如実に表しています。

商店街では若者を呼び込んで一緒に活性化策を実施している事例は数多くあります。私も南石堂町商店街でも過去に大学生や専門学校生と合同で実施した取り組みもありました。しかし、なかなか継続性を保つことは難しく、単年で終わった取り組みもあります。

“呼び込んで（取り込んで）” 行うということには大きく分けて二通りあります。一つは取り組みにお客として参加してもらうこと（参加者）、もう一つは企画をして運営者の立場として関わること（主体者）です。

昨今の南石堂町商店街での取り組みで、若者に“参加者”として関わってもらった例は、2019年11月に実施した「NGANO e スポーツ フェスティバル」です。これは、若者に商店街を知ってもらうきっかけを提供するとともに個店への波及効果も創出する目的で実施したイベントでした。当日は、会場である長野千石劇場（長野駅から一番近い映画館）は多くの若者や家族連れで賑わいました。この他にも、2020年9月に近隣三商店会共同で行った「オータム縁日」も多くの出店と子供広場が功を奏して、子供連れの家族で賑わい、コロナ禍の中で久しぶりに街が賑わいました。

次に若者が“主体者”として関わってもらった例の一つは長野高校との連携が挙げられます。課外授業の一環で商店街のお話をさせていただいたことがきっかけになり、商店街の発信力が課題であるとした生徒さんには、南石堂町商店街の店舗紹介のウェブサイトを作っていただきました。また、非公式クイズ研究会 NEQ とは南石堂町会公民館を拠点として、商店街と共同でまちづくりをしていくことになりました。そして、もう一つ挙げるとすると、本論集の編集協力をしていただいている「シナノ未来プロジェクト」と商店街が共同して、ながの協働ねっとが主催する『地域まるごとキャンパス¹⁸』に講座を持った事例です。これは、ライタースキルを学ぶことで、今後必要になる社会人スキルを養うことを目的としたものです。高校生・大学生が参加して、

- ①事前調査の方法を学ぶ
- ②インタビュー手法を学ぶ
- ③ライティング手法を学ぶ
- ④発信方法を学ぶ

この四点について学び、実際に自身でアポを取り、インタビューを行いました。その後、文

¹⁸ https://peraichi.com/landing_pages/view/marugotocampus/ を参照。

章化して、ある参加者は冊子にして配り、ある人は「note」に書いてウェブ公開¹⁹するなど、街なかをフィールドとして多くの知見を学んでもらいました。この一年間でこうした若者たちが主体者となり活動してくれたことは本当に嬉しいです。

この三つに共通することは、若者たちから「やりたいこと」を積極的に相談してきてくれたことです。これまでですと、大人の方から若者に声を掛けて説得して協力してもらおうということが多かったように思えます。しかし今回は、「こんなことがしたいんです!」「こんなのはどうですか?」と話があり、こちらとしてもできる限り実現してあげたいと調整を重ねて第一歩が踏み出せました。

最近の高校や大学では、学んだことをもとに地域に飛び出して実際にやってみるというスタイルの授業が多くあります。こうした傾向の中で商店街としては、『やりたいことが実現できる実験フィールド』として若者たちに長野駅前エリアを捉えていただき、たくさんの実験的な取り組みをお手伝いできればと思っています。

商店街としても高校生や大学生をサポートすることは、「新しいファンの獲得」とそれに伴う世代間連鎖を続けていくことに繋がります。そして、「実現性を判断する力の養成」「小さなことでも形にする実行力」「物事を進める方法論の習得」といった社会人になって必要となる大人の世界での身のこなし方を若いうちに学ぶことができ、長野の人材育成という意味においても貢献できているのではないのでしょうか。

こうした活動の中で、南石堂町が若い人達が集まる『地域の部室』のような存在になれたとしたら、なんて素敵なことだろうと胸が躍る今日この頃です。

¹⁹ 生徒が講座をもとにインタビューし、原稿をまとめて「note」へ発表した。
<https://note.com/listenmusic7/n/ndae2538f0962> を参照。

「地域の論点」 論点10

商店街を取り巻く環境 ～市場と構想～

川村 和廣

平成24年頃から始まった景気回復局面は実態のないまま終わりを迎えたようだ。気が付けばコロナ禍の真っ只中であって景況の悪化がさらに予想され、出口の見えない不安な経済状況が続いている。日本国内ばかりでなく世界経済全体が急激に減速し悪影響を与え合っているようだ。商品の需要や供給の減少、またサービスや品質の低下など劣悪な問題も発生している。今回のコロナは、リーマンショック以上に悪化した経済状況だと指摘報道されているが、いつまで続くのか不安である。コロナに振り回されている現状では、需要や供給の減少を防ぐために信用回復の活動が以前に増して重要になってきている。

現状では商店街事業への融資の厳格化や商店主の資金調達、資金繰りの不都合により今も景況停滞が続き、閉塞感もありそうだ。しかし、最近では国の支援政策などが整い、金融緩和で徐々に資金調達が若干ではあるが回復してきてはいるが予断を許さない。商店街経営においてもさらなる「現場サイド」の強力な支援業務の推進が待たれる。今後の情勢からも緩やかに迅速に景気回復を一丸となって図っていききたいものだ。

この状況下では、現行の超低金利政策などの後方支援を最大限に活用することが出来るような価値ある事業の展開を推進することも商店街の課題でもありそうだ。もちろん再度原点に立ち返り、経営者情報リテラシーをしっかりと身に付け、ニーズや問題解決に寄り添い、より良い価値づくり支援も重要な課題である。現実的には多種多様な状況や事情が複雑に絡み合っ、解決すべきことが散在している。一般的に「有効活用」と称する中で、空き店舗や空きビルなどを解消する業務や定年退職者や高齢者所有の店舗の売却などの相談業務もありそうだ。

また、人口減少に伴う相続や贈与などの問題も商店の売上減少に相まって店舗の継続支援も大きな課題でもある。そうした店舗も商店街も立派な資産として、資産運営または経営の観点から「事業の周辺」をしっかりと見ていくことが肝要と思われる。地域社会との繋がりがりや地元の伝統文化の復活・継承なども含めた連携や地元調査の方法なども遠くて近い業務である。結果として社会貢献的な内容になっていくことが望ましい。事業展開できる環境もさまざまな分野においてコミュニケーションを通して信用回復を図りながら、もともとの日常的な商店主間の付き合いも以前に増して重要になってくる。大切な店舗・商店街の健全かつ安定した経営（商売）に繋がれたらと思う。こうした効率的なマネジメントを遂行するためには、さまざまな具体的な作業が必要であり連携も欠かせない。

また、現実的には事業継承も大きな問題ではあるが、文字通り資産の継承としても商店街振興のためにも行政支援を大いに期待したいところである。実際、行政支援としてこれまでの一連の状況を踏まえて先進的な施策の検討に入っている。まちづくりの観点から不動産市場として面的なマイクロデータ活用の策定を始めたようである。具体的には、空き家及び空

き地予防対策や建て替え促進など活用マネジメントとして、市街地の経済活性化や連携策などを中心に国・地方自治体・民間などが有するデータをひとつに統合して事業活動の活性化を図ろうとしている。大いに活用したいものだ。

全国各地で抱えている商店、商店街のニーズや問題解決すべきテーマに対して、より良い的確な対応が求められている。そうした中で人口減少や人口流出、さらには少子高齢化などで空き家及び空き店舗などの実践的な対策も喫緊なものであり、早急な行政支援も待たれているが、一丸となった連携も不可欠だ。

これからも全国各地が激動のさまざまな変化の中で、真摯に商売に向き合い、やりがいと自信を持って価値ある情報をやり取りしながら、商店街ともども地域や地元の流通活性化をさらに推進していきたいものだ。安心して買い物へ行ける商店街に期待していきたい。

※本稿についてのデータ等は執筆時の2020年12月23日現在のものです。

※表現及び言い回し等は執筆者の原稿を活かした形で掲載しています。

「地域の論点」 論点 1 1

善光寺口商店会「パルセイロ活性化委員会」の活動について

協同組合ナガノ駅前センター

理事 北村 泰邦

1. 商店会との関わり

親族の経営している会社に入社して、当初は叔父たちが商店会や商工会議所などの会合に出ていました。ナガノ駅前センター²⁰や末広町区²¹で何かイベントをするときはお手伝いすることがありました。そのうちナガノ駅前センターの理事の枠に空席ができたとき、後任理事としてお声がけいただき活動することとなりました。

2. AC長野パルセイロを応援するようになったきっかけ

2011年だったと記憶していますが、JFL リーグ²²に参戦していた長野パルセイロ²³と松本山雅の「信州ダービー²⁴」が旧南長野運動公園スタジアムでありました。その時私は長野青年会議所の会員でしたが、クラブで役員を務めておられる青年会議所 OB から会場警備のお手伝いの依頼があり参加しました。両チームの存在はその時知った、というレベル。「信州ダービー」の価値ももちろん知る訳がありません。同じ県内で競り合っているチームの試合でヒートアップすることもあるから気を付けてね、という危ないアドバイスを受け、さらにその時割り当てられた仕事場所は長野と松本サポーターの境界線。試合が荒れて暴動でも起きたら命懸けだなと本気で心配しました。ただ、試合はチラチラと見ることができて結構面白かったです。

後日談的な話をさせていただくと、その試合高野耕平さんという選手がサイドバック（だったと思います）で出場していて、試合中ずっとピッチを走り続けているのが印象に残っていました。後日選手とお話できるシーズン報告会の際、ご本人とお話する機会があったときは柄にもなく緊張したことを覚えています。

²⁰ 長野駅前にある商店街。中央通りを歩行者天国にして行う「如是姫まつり」など積極的な事業展開をしている。

²¹ 長野駅前にある自治会(町内会)組織を指す。

²² 日本フットボールリーグを指す。詳細は<http://www.jfl.or.jp/jfl-pc/view/s.php?a=1691>を参照。

²³ 長野市をホームタウンとするプロサッカーチーム。2020年11月30日現在J3に所属している。

²⁴ 松本山雅FC（ホームタウン：長野県松本市他）とAC長野パルセイロ（ホームタウン：長野県長野市他）が対戦する試合の呼称を指す。

3. パルセイロ活性化委員会について

2012年か13年に北石堂²⁵の井川さんの発案だったと思いますがパルセイロを街づくり、街おこしのきっかけにしようという提案があり、長野駅前周辺の5商店会で集まったのが活性化委員会の原型です。その前後に長野駅前周辺商店会（現善光寺口商店会）が発足しその下部組織として活性化委員会が立ち上がったのが2014年。2013年にパルセイロがJFLリーグ優勝した際には善光寺大門から南千歳公園までの優勝パレードを運営したり、15年にはレディースがなでしこ2部優勝1部昇格パレードを運営、中央通り²⁶にパルセイロバナーを掲示する事業を実施したりと活動を重ねてきました。



2013年 AC長野パルセイロ JFL 優勝パレードの様子

²⁵ 長野駅前にある北石堂町商店街を指す。

²⁶ 長野市中央通りを指す。長野市中心市街地の主要道路で善光寺の表参道でもある。

4. 地域スポーツと地域の活性化について考えること

商店会としては観客が集まることで発生する市内店舗（もっと言うと善光寺口²⁷エリア）での飲食や土産物購入、宿泊、移動等、経済波及効果をまず期待します。パルセイロ活性化委員会の目的もその点にあります。2020年のパルセイロの1ゲーム平均の観客数は約2,100名前後²⁸。二週間に1回千人規模の人間が動くイベントと考えると大変貴重な商機だと思います。もちろんプロスポーツのほかにも全国中学校△△大会、歌手のコンサート、‘日本○○学会総会’と言った大会・会合も重要です。長野市はオリンピック施設が整備されていますから、この手の大会誘致は有利だと思います。実際にながの観光コンベンションビューロー²⁹は積極誘致を図っています。埼玉県は「さいたまスポーツコミッション」という組織があり、数あるイベントの中でスポーツ大会専門に誘致を行っています。私がプロスポーツイベントに期待する理由は先述した通り定期的に千人規模の人間が動くからです。もう一つはプロスポーツの場合観戦する観客の大部分はホーム側観客ですがアウェイ側の観客もいるのです。今回は観戦目的でも印象が良ければ次回は観光目的で再訪してもらえるかもしれません。いわゆるリピーター化です。よく引き合いに出される東京ディズニーランドはどうお客様に楽しく過ごしていただくかに精力を傾けていると言われます。私達もその視点をもってお客様に接する事が必要と思います。

5. パルセイロ活性化委員会の役割とは

役割としては、この商機を善光寺口エリアに結び付けることと、その拡大であると思います。比較として同じ県内のJリーグチーム松本山雅FCがありますが、2020年シーズンの平均客数は3,900名³⁰と大きい差があります。所属リーグが違う事もありますが、同じ長野県内で何故この差が出るのか常々関心があります。この差を埋める手助けをすることが最終的に私たちの利益に繋がると思っています。具体的には、善光寺口商店会全体（長野市全体でもいいのですが）で「パルセイロ及びアウェイチームのユニフォームを着ている人は100円引き」と言った割引や「新幹線や高速バス待つ間に長野駅前一杯どうですか？」といった情報提供も必要かと思います（この点に関しては2020年度の活性化委員会ですまっぼん³¹活用による試みが始まっています）。もう一つ、長野市はどこを歩いてもパルセイロの地元という目印がないのです。かつて活性化委員会でバナー掲示事業を行ったことはありますし、篠ノ井駅からスタジアム³²に向かっている駅前通りは地元商店会がバナーを掲示

²⁷ 長野駅西口のこと。善光寺側にあるため「善光寺口」という名前で市民に親しまれている。

²⁸ 2020年シーズン有観客ホーム試合は14。総客数29,696人÷14試合=2,121（2020年11月30日現在）過去には5,000人弱を数える年もあった。

²⁹ 長野市の資源及び長野冬季オリンピックの有形無形の財産を活用し、コンベンション（イベント、各種大会、見本市等）の企画、誘致及び支援並びに観光の振興を図り、長野市の産業経済の活性化及び文化の向上並びに国際相互理解の増進に寄与することを目的としている団体。

³⁰ 2020年有観客ホーム試合は17。総客数66,170人÷17試合=平均3,892名（2020年11月30日現在）

³¹ 株式会社イーハイブが提供するサービスを指す。

³² AC長野パルセイロのホームスタジアムは長野市篠ノ井にある。篠ノ井地域も駅を中心に市街地が形成

されていますが現在の長野中央通りは皆無です。これも松本市を例にとると松本駅お城口の出口を出た駅前通りはシーズン中松本山雅のバナーが掲示されています。浦和レッズの地元さいたま市浦和区の商店街も同様でした。ここはパルセイロ（あるいは他チーム）の地元ですよと分かるような仕掛けを提案、実行していく事も活性化委員会の役割だと考えます。



千石稲荷³³初午祭りではAC長野パルセイロの必勝祈願も行われる
善光寺口商店会からAC長野パルセイロへの達磨贈呈式の様子

(左から令和2年度善光寺口商店会中島会長、AC長野パルセイロ井原ビジネス本部長、同レディース泊選手)

6. 増えてきた地域スポーツと今後の展開

現在長野市にホームスタジアム、アリーナがあるチーム³⁴は

- ・パルセイロトップ 毎年3月～12月
- ・パルセイロレディース 毎年10月～翌5月（Weリーグ）
- ・バスケット B1リーグ信州ブレイブウォリアーズ 毎年10月～翌5月
- ・野球 BCリーグ信濃グランセローズ 毎年4月～11月
- ・フットサル F1 ボアルース長野 毎年9月～翌2月

されている。

³³ 長野市千石街にある稲荷神社。近年ではパルセイロの必勝祈願も行っていることから「パルセイロ大明神」としてサポーターから親しまれている。

³⁴ すべて2020年11月30日現在。

の5チームあります。それぞれ集客数は差がありますが数百から数千人が集まる機会は貴重です。リーグ戦の開催期間も分散していて年間通していずれかのリーグが開催されています。それぞれのリーグが行われる時期に動く観客を取り込めるようにしたい。各チームのポスター掲示やチラシ配布などの露出に商店会や活性化委員会が協力することは出来るはずで

7. 私が今後やりたいこと

活性化委員会の今後と重なりますが入場者数の拡大と善光寺口地域への誘客です。

短期的には4、5で述べた割引サービス、バナー掲示が方策として考えられます。各チームと商店会との協力体制の構築も挙げられると思います。町中にパルセイロのオレンジやブレイブウォリアーズの黄色のグッズがあればそれだけでも注目度は違います。それによってチームは市内での露出を増やせませし、各商店は地元スポーツを応援しているというPRにもなります。

また、これらの地域スポーツを観戦に行くことが長野市で当たり前になって欲しい。今は見に行くほうが少数派です。それぞれのチームのホームゲームチケットが売れ過ぎて手に入らず、仕方なく DAZN³⁵のような中継サービスで見るくらいの状況になって欲しいです。

※本稿についてのデータ及び肩書等は執筆時の2020年11月30日現在のものです。

※表現及び言い回し等は執筆者の原稿を活かした形で掲載しています。

³⁵ DAZN グループが運営するスポーツ専門の定額制動画配信サービス。

「地域の論点」 論点 1 2

コロナ禍でも出来ること ～2020 年の経験を活かして～

南石堂町商店街振興組合
理事 深澤 隆之

長野駅前の南石堂町商店街振興組合で理事をしながら商業振興や活性化への取り組みを行っています。普段は「コウジヤ薬局」という薬局を生業としています。もともとは東京都赤羽の出身でイタリアンやポルトガル料理のコックをしていました。息子の幼稚園入園を期に子育ての環境を考えて、妻の母が住む長野へ行くことにしました。コウジヤ薬局に勤めて 10 数年になります。

南石堂町商店街と関わるきっかけ

長野駅前界隈では、南石堂町商店街が主催する「蟻の市³⁶」はとても有名で夏の風物詩です。店舗が会場のすぐ近くにあるので良く遊びに来ていました。そこで、街の知り合いが運営スタッフとして頑張っている姿を見たので、自分も手伝いたいと思っていました。

2018 年の蟻の市で準備と片付けのお手伝いをさせていただきました。そうした中で商店街の役員さんたちと知り合うことになり、2019 年 2 月に共同売出委員会³⁷の委員になって欲しいと依頼をいただき、やらせていただくことにしました。その後、2019 年の蟻の市では共同売出委員会の責任部門である抽選処のスタッフとして参画しました。

こうした活動を認められて、「若手の有望株」として指名いただき、2020 年 5 月の通常総会役員改選を経て、理事として活動することになりました。

理事に就いて感じていること

就任した 2020 年はコロナ禍で通常には組合活動が出来ない 1 年でした。少しでも新しい風を吹き込めたらと思っていたので不完全燃焼といった形です。来年度はあまり遠慮することなく、企画を立てていけたらと思っています。方向性としては、2020 年 9 月に当組合と二線路通り商店会、千石街商店会とで共同実施した「オータム縁日」のような子供が楽しめたり、思い出に残るような取り組みをしていきたいと思えます。加えて、子供が楽しむことで一緒に親も楽しめるような、そんな企画が理想です。

³⁶ 南石堂町商店街振興組合が主催する夏祭りを指す。

³⁷ 南石堂町商店街振興組合の下部組織の一つ。組合加盟店が参加するキャンペーンやセールスの企画・運営にはじまり、商品券事業や植栽活動など、来街者が買い物を楽しめる環境の整備を主な活動として行っている。この他にも、総務委員会、駐車場委員会、活性化委員会、蟻の市委員会、青年部、婦人部といった組織がある。

活性化委員会³⁸について

理事に就任してから共同売出委員会とは別に活性化委員会からも声がかかり委員になりました。活性化委員会のメンバーの年齢層は比較的若く、30～40代を中心として活動しています。活性化委員会は、商店街エリアはもちろんですが長野駅前周辺の活性化及びまちづくりに資する取り組みを中心に企画・実施しています。

今年度はコロナ禍で活動にブレーキはかかりましたが、緊急事態宣言解除後に長野市内の地域団体としては初めて実施したイベント「オータム縁日」や商店街屋外 Free Wi-Fi の増設、商店街マップの100円割引券、「地域の論点³⁹」の発行など、新しい試みも含めて積極的に展開してきました。2019年に長野千石劇場（映画館）で開催した「eスポーツフェスティバル」には、多くの若者が参加して大変な盛り上がりを見せました。商店街がeスポーツの普及を進める理由は今後の商店街を見据えた上で、① これまであまり商店街になじみのなかった年齢層の流入を仕掛け街の賑わいを創出する ② 各個店への波及効果を創出する ③ 長野駅前のPR及び情報発信を進める ④ 長野県内における「聖地化」を図る というものでした。イベント開催前の3か月間ほども組合加盟店の飲食店でミニeスポーツイベントを開催し周知を図り、蟻の市でもeスポーツブースを設けて盛り上がっていたので、コロナ禍で今年度の開催を見送らなければならなかったことは残念でありませんでした。

オータム縁日について

新型コロナウイルス感染症の影響から長野駅前周辺の人通りは戻る気配を見せず、飲食店をはじめとして売上減少がずっと続いていました。そうした環境下でも各店舗は、3密やソーシャルディスタンス対策で、以前より入店人数を制限しての営業を強いられていました。

地域に目を向けてみても、イベント自粛や県をまたいでの旅行の自粛など、これまで行ってきた賑わい創出の取り組みもなかなか実施できない現状でした。しかしながら、このまま対策を練らずには駅前周辺の商業活動の回復は遅れるばかりでしたので、3密とソーシャルディスタンス対策を講じつつ、屋外で大人から子供まで楽しめるイベントを二線路通り及び千石街で開催することを南石堂町商店街振興組合から提案しました。

それぞれの通りを歩行者天国として、路地に面する店舗が机や椅子を出して飲食スペースを作り、販売したり催しを行ったりと路地全体を会場と捉えて賑わいを戻すイベントという位置付けでした。

このイベントのきっかけは、商店街事務局に加盟店から「コロナ対策をしながら何とか賑

³⁸ 南石堂町商店街振興組合の下部組織の一つで、まちづくりに関わる全ての企画を担当する。最近では地域団体としては県内初の主催となるeスポーツイベントを長野千石劇場（映画館）で実施。また、2020年のコロナ禍の中では、周辺商店街や店舗を巻き込んだ共同イベントとして「オータム縁日」を実施した。

³⁹ 南石堂町商店街振興組合ホームページ参照 <https://minami-ishidocho.com/column/>

わいの創出策はできないか？」とお願いがあったことと、小学生の親御さんから「子どもがずっと家に引きこもっていただければいけない状況が続いているが、何とか子供たちが安心して遊べる場所を提供してもらえないか？」とお願いがあったことからです。

初めての試みでしたので参加協力のお願いやコロナ対策への理解など苦労の連続でしたが、周辺商店街や自治会など多くの方々に理解と協力をいただいたので実施することが出来ました。何より良かったことは、子どもたちがこれまでのストレスを発散するかのよう思いっきり楽しんでくれたことです。ここまで子どもたちが注目してくれたのには、周辺小中学校に缶ジュース無料チケットを付けたチラシを配布したことが大きかったと思います。子どもが楽しめるイベントということは、子どもを介して全世代が楽しめるものだと思います。

さて、「オータム縁日」のもう一つの狙いは、コロナ禍で大規模なイベントは今後もしくは難しくということで、小さなイベントを定期的で開催して、来街者を引き付けておく必要があると活性化委員会では考えたからです。そこで、お金とスタッフの労力をなるべくかけずに実施する方法を取ることで、他の地域の方々がすぐに真似をできるような仕組みにすることにもこだわりました。私たちはこれを「二線路・千石街モデル」と呼んでいます。

共同売出委員会について

今年度の共同売出委員会では、新型コロナウイルス関連の景気刺激策として長野市が発行した「ながのビッグプレミアム商品券」に合わせて『オトクにお買い物応援キャンペーン』を実施しました。市の商品券が使える48店舗のうちどこか2店舗でそれぞれ1,000円以上の飲食や買い物をし、スタンプを集めて応募すると抽選で200名に商店街で使用できる商品券5,000円分が当たるというものです。「ついでにもう1店舗行ってみよう」となってもらいたいと思い企画・実施しました。店舗からもお客様からも評判が良く、お客様からは「当たって本当に嬉しい。すぐに買いに来た。」と仰っていただけたり、スタンプを押してもらったお店に報告へ来てくださる方も多く、店舗とお客様のいいコミュニケーションにもなったと聞いています。コロナ禍の暗い雰囲気の中で、一つでも明るい話題が出て本当に良かったと思います。抽選形式の商品券は初めての試みでしたが、ブラッシュアップをして来年度も実施できたらと思っています。

活性化について考えること

私は常々、「ファミリー層が魅力を感じる街にしたい」と思っています。長野駅周辺ではマンションの建設ラッシュになっています。今後のことを考えると、やはり生産人口が増えていくことが一番です。そこで、商店街としても賑わい創出はもちろん大事ですが、生活の中で子育て世代が要望し満足する取り組みを実施していく必要がこれからはあると思います。

それ以外でも他のエリアとの連携や協調は必要ですが、例えばポイントカードやクーポ

◆コロナ禍のイベント開催に向けての「オータム縁日 二線路・千石街モデル」

「二線路・千石街モデル」について

二線路・千石街イベント実行委員会事務局

今回、私たち実行委員会ではできる限り、お金とスタッフの労力をかけずにイベントを運営するかということを念頭に進めてきました。

それは、どこの地域のどの方が実施しようと思ってもできるような形にしたかったからです。コロナ禍の中、1つの店舗だけではどうすることもできない状況がもう半年間も続いています。こうした状況下では、普段は連携などが仮になかったとしても協力して、“集団”の力で何かきつかけを掴んでいくしかありません。

よって、短い期間でどのように進めていけば誰にでもできるということをお話させていただけますと幸いです。

【主催者側が行うコレだけのこと】

- ① 実施するエリアを決定する
- ② エリア内の店舗に出店の協力要請を行う(合意形成を得る)
- ③ 警察署に実施するエリアの「道路使用許可」他、必要な申請を行う
- ④ 衛生管理、コロナ対策の徹底

大きな話をすれば上記4つだけ確実に行えば、本モデルは実行できると思います。

①は関連する商店街のエリアや通り(道)を決めることです。大きな公園がある場合はそこでもよろしいかと思います。公園の場合、「道路使用許可」は必要ありませんが、管理をしている例えば市役所などの了承を得る必要があるかと思います。

②は実施するのに大変重要な内容です。出店者がいなければそもそもイベントになりません。そこで私たちは、これまでによくあった出店する際の制約を一切無くしました。

- ・出店料は取らない
- ・アルコール類の販売に関して制限をかけない
- ・販売メニューに一切の口出しをしない
- ・販売価格について一切の口出しをしない

例えば、上記の内容です。これの理由には大きく2つあり、1つはコロナ禍で売上が低迷している中、できる限り出店者さんに利益を得て欲しいこと。2つ目は、制限の無い代わりに出店にかかる備品や必要な物はすべて出店者側が用意するという事で確認を取りました。これは、実行委員会側(主催者)の負担を極力減らすとともに、どの店舗でも出店しやすくするためです。

③については面倒なイメージがあるかも知れませんが、申請前に一度警察署へ相談に行き、助言されたことを踏まえて申請すれば問題ありません。私も「コロナ禍の中で店舗の皆さんは本当に踏ん張っている。何とか応援して欲しい」と懇願して大丈夫でした。

④は普段店舗で徹底していることをそのまま行っただされば大丈夫です。

いかがでしょうか？

何とかできそうに思えてきませんか？

これからは寒くなりイベントが無くなっていく時期ではありますが、春になったとしてもコロナの状況がどうなっているのか、好転している保証もありません。そうであれば、桜の時期やゴールデンウィークに向けて話し合いを進めてみるのも1つの方法かと思います。

長野駅前の中央通りと連携しながらも考えられます。ぜひ、皆様に長野市の経済活動を前に進めていきませんか？

いつでも現場まで話し合いにお伺いいたします。よろしくお願いたします。

【お問い合わせ先】

二線路・千石街イベント実行委員会事務局 (担当:宮下)

〒380-0824 長野市南石堂町 1262

TEL/FAX:026-228-2271

Mail: minami37@mx1.avis.ne.jp

◆キャンペーンを伝える新聞記事（2020年12月3日信濃毎日新聞北信欄）

信 濃 毎 日

クーポン、買い物券…「地元を活気づけたい」



長野銀座商店街振興組合が配るクーポン券

長野の商店街 独自策続々

新型コロナウイルス関連の景気刺激策として長野市が発行する「ながのビッグプレミアム商品券」の利用が1日に始まったのに合わせ、市内の商店街などが独自のキャンペーンを企画している。商品券で買い物した人へのクーポン券の配布や、スタンプラリーでの買い物券プレゼントなどを準備し、年末の書き入れ時を迎え、地元を活気づけたいと期待を込める。

新型コロナ景気対策 市のプレミアム商品券に合わせ

中央通り沿いの各店舗などが加わる長野銀座商店街振興組合は「Go To Premium Goods」事業「Go To イート」のプレミアム付き食事券が使える登録店舗計86店を紹介するチラシを作成。1日、近隣各戸などに約5万枚を配った。店舗の種類により3個か5個のスタンプを集めると、商店街で使える500円か千円の買い物券がもらえる。

市村信幸理事長（74）によると、飲食店の多い権堂では特に新型コロナウイルスの感染拡大状況に人が出入りが左右される。先行きが見通しにくく危機感は大いにと、各商店街とも感染防止対策に力を入れており、「（販促の工夫）街に掛けける雰囲気をつくれ、2年出掛ける雰囲気をつくれ」と願う。

長野銀座、南石堂町、権堂の各組合は、新型コロナウイルス対策の販促事業でクーポン券を印刷する場合などが対象となる市補助金を活用した。市は他に、感染予防の店舗改修などが対象となる中小事業者向けの補助金も用意しており、「効果的に活用してほしい」（商工労働課）と呼び掛けている。申請受け付けは28日まで。

石堂町商店街振興組合は、市の商品券が使える48店舗のうちどこか2店舗でそれぞれ千円以上の飲食や買い物をして、スタンプを集めて応募すると、抽選で200人に同商店街で使える商品券5千円分が当たるキャンペーンを実施。締め切りは15日で、事務局は「宝くじのように楽しんでほしい」。各店舗では市の商品券利用者も先着でマスクとカイロのセットも贈っている。

権堂商店街協同組合は、市の商品券や、飲食業界の支援事業「Go To イート」のプレミアム付き食事券が使える登録店舗計86店を紹介するチラシを作成。1日、近隣各戸などに約5万枚を配った。店舗の種類により3個か5個のスタンプを集めると、商店街で使える500円か千円の買い物券がもらえる。

市村信幸理事長（74）によると、飲食店の多い権堂では特に新型コロナウイルスの感染拡大状況に人が出入りが左右される。先行きが見通しにくく危機感は大いにと、各商店街とも感染防止対策に力を入れており、「（販促の工夫）街に掛けける雰囲気をつくれ、2年出掛ける雰囲気をつくれ」と願う。

長野銀座、南石堂町、権堂の各組合は、新型コロナウイルス対策の販促事業でクーポン券を印刷する場合などが対象となる市補助金を活用した。市は他に、感染予防の店舗改修などが対象となる中小事業者向けの補助金も用意しており、「効果的に活用してほしい」（商工労働課）と呼び掛けている。申請受け付けは28日まで。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月15日にインタビューした内容をまとめたものです。

あとがき

2020年5月、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、先行きが不透明で見通しが立たない中、街の商業振興やまちづくりを担う当組合の下部組織である「活性化委員会」の責任者に就任しました。多くの人が集まることや賑わいを創出すること自体も自粛を求められる中、例年行われているイベントや取り組みも中止せざるを得ない状況が続きました。それは、ウィズコロナを見据えながら、自分たちに何ができるのかを自問自答し、模索し続けた2020年でした。

こうした状況下で、「在野の知的財産の集積」を目的とした『地域の論点』の編纂事業は、まさに時代に沿ったものだと思います。市井の皆さんのアイデアを持ち寄り、新たな社会生活へのヒントや方向性を見出すきっかけに少しでもなればと考え取り組んできました。

今回の『地域の論点 2021』は、若者や女性に焦点を当てることをテーマにしました。ここ最近の世相は、災害やコロナ禍、賑わいのない街、疑うことから始まる人間関係など、暗い話題ばかりですが、こうした日常に光を照らすことが出来るのは、若者や女性の行動とそれを支える地域社会ではないでしょうか。

多くの想いや活動を「実践知として可視化するため」に編纂スタッフと執筆者が何度も何度も校正を繰り返しました。こうした積み重ねを続けて、総勢12の個人や団体の皆さまから教育、福祉、まちづくり、ボランティア、地域スポーツ、地域経済、地域社会、コミュニティ、文化、観光など多岐にわたるテーマ及び視点から執筆していただきました。現場視点の実践知には、これからに向けてのヒントが多くあり、大変読み応えのある論集になっています。

こうした私たちのチャレンジは、「在野の知的財産の集積」を目的としたゴールなき、現場のみんなで襷を繋ぐ駅伝のようなものです。最初の一步二歩は誰も知らない、それは小さな一步ですが、いつかみんなの熱い想いと汗がしみ込んだ襷とともに、走りつないだ足跡が将来を生きる多くの人たちの心の中に残ることを私たちは心から願っています。

最後になりますが、これまで執筆及び編纂作業にご協力していただいた多くの皆さまのご紹介はできませんが、ここに活性化委員会の責任者として深く御礼を申し上げます。

令和 3年 3月 吉日
南石堂町商店街振興組合
活性化委員長 滝口 誠